



## **Cisco Unified Communications Manager リリース 12.0(1) Dialed Number Analyzer ガイド**

初版：2017年08月17日

### **シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2018 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

はじめに	vii
目的	vii
対象読者	vii
マニュアルの構成	viii
関連資料	viii
表記法	viii
サポート	x
オンラインドキュメント	x
マニュアルの発注	x
マニュアルに関するフィードバック	xi
暗号機能	xi
セキュリティ	xii
テクニカルサポート	xii
オンラインサポート	xiii
サービスリクエスト	xiii
サービス要求の重大度	xiii
その他の情報	xiv
はじめに	1
Dialed Number Analyzer	1
機能	1
アクセシビリティに関する準拠	2
分析	2
番号削除の命令	3
分析の出力	3
関連項目	3
Dialed Number Analyzer サービス	5

ログオン	5
Dialed Number Analyzer サービスのアクティブ化	6
Dialed Number Analyzer の起動と停止	7
Dialed Number Analyzer の非アクティブ化	8
関連項目	8
ダイヤル プラン設定	9
データベースの同期の有効化	10
データベースの同期の無効化	10
学習パターン	11
単純な分析の実行	12
電話の分析	15
電話機の検索	16
電話回線の選択	17
電話での分析の実行	18
ゲートウェイの分析	19
ゲートウェイの検索	20
ゲートウェイ エンドポイントの選択	21
IOS ゲートウェイの選択	22
非 IOS ゲートウェイの選択	25
IOS H.323 ゲートウェイの選択	26
アナログ アクセス ゲートウェイの選択	27
アナログ電話ゲートウェイの選択	29
ゲートウェイ分析の実行	30
トランク分析	32
トランクの検索	32
トランクの選択	33
トランク分析の実行	34
複数の分析	36
複数の分析用の CSV ファイルの作成	37
複数の分析用のテキスト ファイルの作成	38
複数の分析用の CSV ファイル形式	39
入力ファイルのアップロード	42

CSV ファイルの表示	43
CSV ファイルの削除	44
CSV ファイルの分析	44
分析の出力	45
分析例	45
例 1	46
例 2	49
例 3	53
例 4	56
例 5	58
例 6	61
例 7	63
例 8	66
結果概要	68
コールフローの詳細	70
[トランсляションパターン (Translation Pattern) ]	71
ルートパターン	72
ハントパイロット	73
[電話番号 (Directory Number) ]	75
[デバイス情報 (Device Information) ]	75
サイレント (DND)	76
自動代替ルーティング (AAR)	76
インターコム DN パターン	77
代替の一致	77
番号削除の命令のダンプ	78
出力ファイルの表示	79
トレース設定ファイルの有効化	80
関連項目	81





## はじめに

---

- 目的, vii ページ
- 対象読者, vii ページ
- マニュアルの構成, viii ページ
- 関連資料, viii ページ
- 表記法, viii ページ
- サポート, x ページ
- マニュアルに関するフィードバック, xi ページ
- 暗号機能, xi ページ
- テクニカルサポート, xii ページ
- その他の情報, xiv ページ

## 目的

『Cisco Unified Communications Manager 向け Dialed Number Analyzer ガイド』は、Dialed Number Analyzer を使用して、展開された Cisco Unified Communications Manager ダイヤルプラン設定のテストと診断、テスト結果の分析、およびそれらの結果を使用したダイヤルプランの調整を行う方法について説明します。

## 対象読者

『Cisco Unified Communications Manager Dialed Number Analyzer Guide』では、Cisco Unified Communications Manager の設定を管理するネットワーク管理者を対象にした情報を提供しています。このマニュアルを使用するには、テレフォニーおよびIP ネットワーキングテクノロジーに関する知識が必要です。

## マニュアルの構成

次の表に、このマニュアルの構成を示します。

章	説明
<a href="#">はじめに, (1 ページ)</a>	Cisco Unified Communications Manager の Dialed Number Analyzer の概念を示し、主要な機能について説明します。
<a href="#">Dialed Number Analyzer サービス, (5 ページ)</a>	Dialed Number Analyzer サービスのサインイン、アクティブ化、非アクティブ化、起動、および停止する方法について説明します。
<a href="#">ダイヤルプラン設定, (9 ページ)</a>	Dialed Number Analyzer サービスでは、設定された Cisco Unified Communications Manager ダイヤルプランを分析する方法について説明し、ダイヤルされた番号のコールフローの詳細を提供します。

## 関連資料

関連する Cisco IP テレフォニー、アプリケーション、および製品に関する詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- 『*Installing Cisco Unified Communications Manager*』
- 『*Release Notes for Cisco Unified Communications Manager*』
- 『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』
- 『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』
- 『*Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』
- 『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』
- 『*Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide*』

## 表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
boldface フォント	コマンドおよびキーワードは太字で示しています。



表記法	説明
<i>italic</i> フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で表記されています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[ x y z ]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
^	^記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイントアドバイスは、次のように表しています。



ワンポイントアドバイス

「時間の節約に役立つ操作」です。記述されている操作を実行すると時間を節約できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

役立つ「ヒント」の意味です。

注意は、次のように表しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



警告

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。

## サポート

マニュアルの入手方法、テクニカルサポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

シスコ製品のマニュアルおよびその他の資料は、Cisco.com から入手できます。また、シスコのテクニカルサポート、およびその他のリソースをさまざまな方法で入手することもできます。以降の項では、シスコから技術情報を取得する方法について説明します。

## オンラインドキュメント

次の URL から、シスコ製品の最新資料を入手することができます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

シスコの Web サイトへは、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com>

シスコの Web サイトの各国語版へは、次の URL からアクセスできます。

[http://www.cisco.com/public/countries\\_languages.shtml](http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml)

## マニュアルの発注

次の URL でドキュメントの発注方法を参照してください。

[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/es\\_inpk/pdi.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/es_inpk/pdi.htm)

次の方法で Cisco 製品の資料を発注できます。

- Cisco.com (Cisco Direct Customers) に登録されている場合、Ordering Tool からシスコ製品のマニュアルを発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/partner/ordering/index.shtml>

- Cisco.com に登録されていない場合は、製品を購入された代理店にお問い合わせください。

## マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

マニュアルの表紙裏にある回答カード（ある場合）にコメントするか、次の住所宛てにコメントいただくこともできます。

シスコ

Attn: Customer Document Ordering

170 West Tasman Drive

San Jose, CA 95134-9883

お客様からのご意見をお待ちしております。

## 暗号機能

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化に関連する製品を管理する米国の法律の概要については、<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html> で参照できます。さらに詳しい情報が必要な場合は、[export@cisco.com](mailto:export@cisco.com) 宛てに電子メールでお問い合わせください。

シスコでは、無償の Security Vulnerability Policy ポータルを次の URL で提供しています。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_security\\_vulnerability\\_policy.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html)

このサイトから、次のタスクを実行できます。

- シスコ製品のセキュリティ上の脆弱性を報告します。
- シスコ製品が関係するセキュリティ問題についてサポートを受けます。
- シスコからのセキュリティ情報の受信を登録します。

シスコ製品のセキュリティに関するアドバイスおよび通知の最新リストについては、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

リアルタイムで更新されているアドバイスと通知を確認する場合、次の URL からフィードされている「Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS)」を参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_psirt\\_rss\\_feed.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html)

## セキュリティ

シスコでは、安全な製品を提供することを目指しています。製品のリリース前に社内でテストを実施し、すべての脆弱性を迅速に修正するように努めております。シスコ製品の脆弱性を見つけた場合、次の PSIRT にご連絡ください。

- 緊急度の高い問題： [security-alert@cisco.com](mailto:security-alert@cisco.com)

緊急度の高い問題とは、システムが攻撃を受けている状態、または急を要する深刻なセキュリティの脆弱性を報告する必要がある状態を指します。それ以外の状態はすべて、緊急度の低い問題と見なされます。

- 緊急度の低い問題： [psirt@cisco.com](mailto:psirt@cisco.com)

緊急度の高い問題の場合、次の電話番号で PSIRT に問い合わせることもできます。

- 1 877 228-7302
- 1 408 525-6532



ヒント

Pretty Good Privacy (PGP) または互換性のある製品を使用して、シスコに送信する機密情報を暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x ~ 8.x と互換性がある暗号化情報に対応できます。



ヒント

無効または期限切れになった暗号キーは使用しないでください。PSIRT との連絡に使用する適切な公開キーは、次の URL にある Security Vulnerability Policy ページの「Contact Summary」セクションでリンクが設定されている公開キーです。



ヒント

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_security\\_vulnerability\\_policy.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html)



ヒント

このページ上のリンクには、正しい PGP キー ID が使用されています。

## テクニカル サポート

シスコ テクニカル サポートでは、有効なシスコ サービス契約を保有しているすべてのお客様、パートナー、リセラー、およびディストリビュータ向けに、24 時間対応の高い評価を得ているテ

テクニカルサポートを用意しています。Cisco.com の Cisco Technical Support Web サイトは、幅広いオンラインサポートリソースを特長としています。さらに、Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、エンジニアによる電話サポートを受けることもできます。有効なシスコサービスの契約がない場合、リセラーにお問い合わせください。

## オンラインサポート

Cisco Technical Support Web サイトでは、シスコ製品やシスコテクノロジーに関する技術的な問題を解決するためのオンラインのドキュメントやツールをご利用いただけます。この Web サイトは、1 年中いつでも利用することができます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support Web サイトのすべてのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要になります。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL で登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>

## サービス リクエスト

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 および S4 サービス要求を簡単に開くことができます (S3 と S4 の問題とは、ネットワークの障害が軽微である場合、あるいは製品情報が必要な場合を意味します)。状況をご説明いただくと、TAC Service Request ツールが自動的に推奨する解決方法を提供します。これらの推奨リソースを使用しても問題が解決しない場合は、TAC エンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 サービス要求の場合、またはインターネットにアクセスできない場合、電話で Cisco TAC にご連絡ください (S1 または S2 の問題とは、運用中のネットワークがダウンした場合、あるいは重大な障害が発生した場合を意味します)。S1 および S2 の問題には Cisco TAC の技術者がただちに対応し、業務を円滑に実行できるよう支援します。

電話でサービス要求を利用するには、次のいずれかの番号におかけください。

アジア太平洋 : +61 2 8446 7411 (オーストラリア : 1 800 805 227)

EMEA : +32 2 704 55 55

米国 : 1 800 553 2447

詳細な Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

## サービス要求の重大度

すべてのサービス要求が標準形式で報告されるように、シスコでは重大度を定義しています。

重大度 1 (S1) : ネットワークが「停止」している、またはビジネス運用に重大な影響があります。状況を解決するために、お客様とシスコが24時間体制で必要なすべてのリソースの提供に集中します。

重大度 2 (S2) : 既存のネットワークの動作が大幅に低下しているか、業務の重要な側面がシスコ製品の不適切なパフォーマンスによって悪影響を受けています。お客様とシスコは通常の業務時間中にフルタイムでリソースを投入し、この状況を解決します。

重大度 3 (S3) : ネットワークの動作パフォーマンスが低下していますが、ほとんどの業務は機能しています。お客様とシスコは通常の業務時間中にリソースを投入し、サービスを適性レベルまで復元します。

重大度 4 (S4) : シスコ製品の機能、インストール、または設定に関する情報またはサポートが必要です。事業運営への影響がない、または軽微である場合。

## その他の情報

シスコの製品、テクノロジー、ネットワークソリューションに関する情報は、オンラインや印刷物などさまざまなソースから入手することができます。

- Cisco Marketplace では、シスコの出版物、リファレンスガイド、ロゴ製品を入手することができます。シスコのショップ、Cisco Marketplace には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- シスコ製品カタログでは、シスコが提供するネットワーキング製品、発注サービス、およびカスタマーサポートサービスについて説明しています。シスコの製品カタログは、次の URL から入手できます。

<http://cisco.com/univercd/cc/td/doc/pcat/>

- Cisco Press では、一般的なネットワーキング、トレーニング、認定に関する幅広い書籍を発行しています。これらの出版物は、新規および既存の両方のユーザにご活用いただけます。Cisco Press の最新の出版情報などについては、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 「Packet」マガジンは、インターネットおよびネットワーキングの投資を最大限に活用するためのシスコのテクニカルユーザマガジンです。「Packet」は季刊で、最新の業界動向、テクノロジーブレイクスルー、シスコの製品とソリューション、ネットワークの展開とトラブルシューティングのヒント、設定例、お客様のケーススタディ、認定およびトレーニングに関する情報、および多数の詳細なオンラインリソースへのリンクが掲載されています。

『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/packet>

- 「iQ Magazine」はシスコから季刊として発行され、成長する企業がテクノロジーを使用して収益を向上し、ビジネスを整理し、サービスを拡張する方法を習得することを支援しています。本誌では、実例とビジネス戦略を挙げて、成長企業が直面する問題とそれを解決するための技術を紹介し、読者が技術への投資に関して適切な決定を下せるよう配慮しています。

『iQ Magazine』へは、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>

- 「Internet Protocol Journal」はシスコから季刊で発行されている、パブリックおよびプライベートのインターネットおよびイントラネットの設計、開発、および運用に関するエンジニアリング担当者向けの機関誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/ipj>

- シスコでは、ワールドクラスのネットワークトレーニングをご利用いただけます。最新の提供内容については次の URL で確認できます。

<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>







## 第 1 章

# はじめに

- [Dialed Number Analyzer, 1 ページ](#)
- [機能, 1 ページ](#)
- [関連項目, 3 ページ](#)

## Dialed Number Analyzer

Dialed Number Analyzer は、Cisco Unified Communications Manager とともに、機能サービスの 1 つとしてインストールできます。このツールにより、Cisco Unified Communications Manager のダイヤルプラン設定を展開前にテストできます。また、このツールを使用して、展開後のダイヤルプランを分析することもできます。

ダイヤルプランが複雑になり、複数のデバイス、トランスレーションパターン、ルートパターン、ルートリスト、ルートグループ、発呼側および着信側の変換、およびデバイスレベルの変換が関係すると、ダイヤルプランに誤りが含まれる場合があります。Dialed Number Analyzer を使用してダイヤルプランをテストするには、ダイヤルされた番号を入力に使用します。ダイヤルされた番号が分析され、コールの詳細が表示されます。その結果を使用してダイヤルプランを診断し、問題があれば特定し、ダイヤルプランを調整してから展開できます。

### 関連トピック

[関連項目, \(3 ページ\)](#)

## 機能

Cisco Unified Communications Manager の Dialed Number Analyzer は、リモートサーバからアクセス可能な Cisco Unified Communications Manager 機能サービスとして動作します。

Cisco Dialed Number Analyzer では、Cisco Unified Communications Manager ダイヤルプラン内のインバウンドコールとアウトバウンドコールを分析できます。コールが分析され、結果として、コールパターン、ダイヤルされた番号に適用される発呼側と着信側の変換など、コールの詳細が表示されます。

次の項では、ツールの各機能について説明します。

#### 関連トピック

[関連項目](#)、(3 ページ)

## アクセシビリティに関する準拠

Dialed Number Analyzer の各 Web ページは、ユーザフレンドリで、ほとんどのアクセシビリティ要件に適合するように設計されています。すべてのページに用意されたスキップナビゲーションリンクにより、スクリーンリーダーのユーザにとってナビゲートがしやすくなっており、フォームに値を入力する際にも役立ちます。すべてのテキストフィールドのフォントと色について、高コントラストの Windows システム設定を受け入れます。また、Dialed Number Analyzer は、最終的な出力ページ用に高コントラストの実装も提供しています。

最終的な出力ページにおいて、スクリーンリーダーアプリケーションのユーザは階層的な結果に関する情報にアクセスできません（すべてのアイコンが箇条書きとして読み上げられます）。また、異なる階層の情報を選択してアクセスすることもできません。DNA では最終的な結果の出力ページに XML データ構造を使用しているため、そのことが制限になっています。階層のアクセシビリティに関する問題を少しでも軽減するために、標準のツリー制御イメージアイコンではレベル情報が提供されています。また、スクリーンリーダーを使用する場合、[すべて展開 (Expand All)] ボタンと [すべて縮小 (Collapse All)] ボタンのどちらがクリックされているかに関係なく、スクリーンリーダーは出力ページ内の XML ツリー データ構造のコンテンツ全体を読み上げます。

#### 関連トピック

[関連項目](#)、(3 ページ)

## 分析

Cisco Unified Communications Manager の Dialed Number Analyzer では、ダイヤルプランをテストする際に、発呼側と着呼側の役割を持つ特定のデバイスを選択できます。IP Phone、CTI ポート、ゲートウェイなどのデバイスからのコールを分析できます。

簡単な分析ならば、ダイヤルされた番号を入力として直接入力し、分析を実行する必要があるコーリング検索スペースを選択することで実行できます。デバイスを選択した場合、そのデバイスに関連付けられているコーリング検索スペースを使用して、分析が実行されます。

また、デバイスにバインドされていない発呼側番号を分析することもできます。

Dialed Number Analyzer では、コールパーク、MeetMe、メッセージ受信インジケータ (MWI)、コールピックアップなどの機能固有のパターンに対してコールが分析されます。

Dialed Number Analyzer は、展開されたシステムで Cisco Unified Communications Manager が実施するのと同様に、着信側トランスフォーメーションと発呼側トランスフォーメーションをさまざまな段階でダイヤルされた番号に適用します。分析の出力には、ダイヤルされた番号のエンドツーエンドの詳細が含まれます。

### 関連トピック

[関連項目, \(3 ページ\)](#)

## 番号削除の命令

Cisco Unified Communications Manager データベースには、着信側トランスフォーメーションの情報が保存されています (Cisco Unified Communications Manager のダイヤルプランに指定される番号削除の命令 (DDI) など)。Dialed Number Analyzer は、Cisco Unified Communications Manager データベースを使用してダイヤルプランを分析します。また、ダイヤルプランに指定されている番号削除の命令を表示することもできます。

Cisco Unified Communications Manager は、ルートパターンを使用して、内部と外部のコールをルーティングまたはブロックします。ルートパターンは Cisco Access Gateway、電話、およびルートリストに割り当てられます。Dialed Number Analyzer では、デバイスに関連付けられている、分析する Cisco Unified Communications Manager のダイヤルプランで設定されているダイヤリングパターンを表示できます。

### 関連トピック

[関連項目, \(3 ページ\)](#)

## 分析の出力

Dialed Number Analyzer では、分析の実行に使用しているブラウザの新しいウィンドウに分析結果が表示されます。オンラインで結果を確認するか、表示された出力を取得と利用が容易な XML ファイル形式で保存することができます。

これらの機能の使用方法については、このマニュアルの後半で説明します。

### 関連トピック

[関連項目, \(3 ページ\)](#)

## 関連項目

- [Dialed Number Analyzer, \(1 ページ\)](#)
- [機能, \(1 ページ\)](#)





## 第 2 章

# Dialed Number Analyzer サービス

---

- [ログオン, 5 ページ](#)
- [Dialed Number Analyzer サービスのアクティブ化, 6 ページ](#)
- [Dialed Number Analyzer の起動と停止, 7 ページ](#)
- [Dialed Number Analyzer の非アクティブ化, 8 ページ](#)
- [関連項目, 8 ページ](#)

## ログオン

ここでは、リモートサーバから Dialed Number Analyzer にログインする手順について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** DNA にアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager Serviceability にアクセスし、[ツール (Tools) ] > [Dial Number Analyzer] を選択します。  
また、次の URL も使用できます。

`https://<cm-machine>/dna`

この <cm-machine> には、Dialed Number Analyzer をインストールするノード名または IP アドレスを指定します。

[ネットワーク パスワードの入力 (Enter Network Password) ] ダイアログが表示されます。

**ステップ 2** [ユーザ名 (User Name) ] フィールドに、有効なユーザ ID を入力します。  
ユーザ ID には Unified CMAAdministrator を使用します。

- ステップ 3** [パスワード (Password) ] フィールドに、そのマシンの Unified CM Administrator ログイン ID に対応するパスワードを入力します。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。
- ステップ 5** これで、Dialed Number Analyzer にログインしました。
- 

#### 関連トピック

[関連項目, \(8 ページ\)](#)

## Dialed Number Analyzer サービスのアクティブ化

Dialed Number Analyzer は、サービスとしてインストールされた後、自動的に起動します。ツールのステータスを確認することで、サービスが起動していることを確認できます。

Dialed Number Analyzer サービスのアクティブ化や非アクティブ化を実行するには、Cisco Unified Communications Manager Serviceability を適切な URL でアクセスして使用します。サービスをアクティブ化するには、次の手順を使用します。

#### 手順

---

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Serviceability にアクセスします。
- ステップ 2** [ツール (Tools) ] > [サービス アクティベーション (Service Activation) ] を選択します。  
[サービス アクティベーション (Service Activation) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [Unified CM Services] リストから [Cisco Dialed Number Analyzer] を選択し、[保存 (Save) ] をクリックします。  
(注) サービスがすでにアクティブな場合、[アクティベーション ステータス (Activation Status) ] に [アクティブ (Activated) ] と表示されます。
- ステップ 4** サービスがアクティブになり、[アクティベーション ステータス (Activation Status) ] 列に [アクティブ (Activated) ] とステータスが表示されます。  
(注) DNA サービスはアクティブになると自動的に起動します。サービスの停止、起動、または再起動については、[Dialed Number Analyzer の起動と停止, \(7 ページ\)](#) を参照してください。  
(注) Dialed Number Analyzer は、サービスが起動されるたびに Cisco Unified Communications Manager データベースと同期します。
- 

#### 関連トピック

[関連項目, \(8 ページ\)](#)

# Dialed Number Analyzer の起動と停止

Dialed Number Analyzer サービスは、Cisco Unified Communications Manager Serviceability を使用してアクティブ化された後、自動的に起動します。ここでは、Dialed Number Analyzer サービスを停止または再起動する手順について説明します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Serviceability で、[ツール (Tools)] > [コントロールセンターの機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。  
[コントロールセンターの機能サービス (Control Center - Feature Services)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [サーバ (Servers)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。  
Dialed Number Analyzer が、[Unified CM Services] の [サービス名 (Service Name)] 列のリストに表示されます。
- (注) Dialed Number Analyzer を [Dialed Number Analyzer サービスのアクティブ化](#)、(6 ページ) に従ってアクティブにしている場合、[ステータス (Status)] に [アクティブ (Activated)] と表示されます。
- ステップ 3** Dial Number Analyzer に対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** Dialed Number Analyzer サービスを再起動する場合は、[再起動 (Restart)] をクリックします。  
サービスが再起動し、「サービスの再起動に成功しました (Service Successfully Restarted)」というメッセージが表示されます。
- ステップ 5** Dialed Number Analyzer サービスを停止する場合は、[停止 (Stop)] をクリックします。  
サービスが停止し、「サービスの停止に成功しました (Service Successfully Stopped)」というメッセージが表示されます。
- ステップ 6** 停止した Dialed Number Analyzer サービスを起動する場合は、[開始 (Start)] をクリックします。  
サービスが起動し、「サービスの起動に成功しました (Service Successfully Started)」というメッセージが表示されます。
- 

## 関連トピック

[関連項目](#)、(8 ページ)

# Dialed Number Analyzer の非アクティブ化

Dialed Number Analyzer サービスは、不要なときは非アクティブにすることができます。ここでは、Dialed Number Analyzer サービスを非アクティブにし、ツールからログアウトする手順について説明します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Serviceability で、[ツール (Tools)] > [サービスアクティベーション (Service Activation)] を選択します。  
[サービス アクティベーション (Service Activation)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [サーバ (Servers)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。  
Dialed Number Analyzer が、[Unified CM Services] の [サービス名 (Service Name)] 列のリストに表示されます。[ステータス (Status)] には [アクティブ (Activated)] と表示されています。
- ステップ 3** [Dial Number Analyzer] に対応するチェックボックスをオフにし、[保存 (Save)] をクリックします。  
サービスが非アクティブになり、[ステータス (Status)] 列に [非アクティブ (Deactivated)] とステータスが表示されます。

Dialed Number Analyzer を終了するには、サービスを停止してから、ブラウザ ウィンドウを閉じます。

---

## 関連トピック

[関連項目, \(8 ページ\)](#)

## 関連項目

- [ログオン, \(5 ページ\)](#)
- [Dialed Number Analyzer サービスのアクティブ化, \(6 ページ\)](#)
- [Dialed Number Analyzer の起動と停止, \(7 ページ\)](#)
- [Dialed Number Analyzer の非アクティブ化, \(8 ページ\)](#)





## 第 3 章

# ダイヤルプラン設定

Dialed Number Analyzer では、設定された Cisco Unified Communications Manager ダイヤルプランを分析することが可能であり、ダイヤルされた番号のコールフローについて詳細が提供されます。展開前の段階では、このツールを使用して複雑なダイヤルプランの問題を特定し、ダイヤルプランを微調整することができます。また、ダイヤルプランの展開後は、ダイヤル番号のコールフローの問題をリアルタイムに特定できます。

Dialed Number Analyzer を使用して Cisco Unified Communications Manager システムのクラスタと多数のデバイスに対してダイヤルプランを分析する場合、ウィンドウを利用して分析用のデータをすぐに入力することも可能です。ただし、分析を実行した後に、結果を表示することができなくなる場合があります。次のメッセージが表示されます。

- [データベースの同期の有効化, 10 ページ](#)
- [データベースの同期の無効化, 10 ページ](#)
- [学習パターン, 11 ページ](#)
- [単純な分析の実行, 12 ページ](#)
- [電話の分析, 15 ページ](#)
- [ゲートウェイの分析, 19 ページ](#)
- [トランク分析, 32 ページ](#)
- [複数の分析, 36 ページ](#)
- [分析の出力, 45 ページ](#)
- [番号削除の命令のダンプ, 78 ページ](#)
- [出力ファイルの表示, 79 ページ](#)
- [トレース設定ファイルの有効化, 80 ページ](#)
- [関連項目, 81 ページ](#)

## データベースの同期の有効化

Dialed Number Analyzer は、Cisco Unified Communications Manager データベース設定を複製し、その複製を使用してダイヤルプラン内のコールを分析します。そのため、このツールを使用して分析を実行する前に、Dialed Number Analyzer が Cisco Unified Communications Manager データベースと同期していることを確認してください。Cisco Unified Communications Manager データベースに対して変更が行われた場合は、最新のデータで分析が行われるように、Dialed Number Analyzer によって変更が反映されていることを確認してください。データベースの変更には、デバイスの追加または削除、ルートパターンの変更、ゲートウェイ構成設定の変更などがあります。

Cisco Unified Communications Manager の管理を使用してデータベースの変更が行われるたびに、Dialed Number Analyzer が Cisco Unified Communications Manager からデータベースの変更通知を受信できるように設定できます。Dialed Number Analyzer へのデータベースの変更通知を有効にするには、次の手順を使用します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Dialed Number Analyzer で、[サービス (Service)] > [コントロールセンター (Control Center)] を選択します。  
[コントロールセンター (Control Center)] ウィンドウが表示されます。[サービス名 : データベース (Service Name-Database)] 列に [データベースの同期 (Database Synchronization)] が表示されます。
- ステップ 2** デフォルトでは、Dialed Number Analyzer がインストールされたとき、システムによってデータベースの同期が有効化されています。データベースの同期を有効なままにする場合は、この設定を変更しないでください。
- (注) データベースの同期を無効化し、再び有効化した場合は、Dialed Number Analyzer が Cisco Unified Communications Manager データベースと同期した状態になるように、Dialed Number Analyzer サービスを停止して起動しなおしてください。Dialed Number Analyzer サービスの起動手順については、[Dialed Number Analyzer サービスのアクティブ化](#)、(6 ページ) を参照してください。
- 

### 関連トピック

[関連項目](#)、(81 ページ)

## データベースの同期の無効化

Cisco Unified Communications Manager データベースに対して行われた変更を Dialed Number Analyzer に通知しないように選択できます。データベースの変更通知を無効にするには、次の手順を使用します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [サービス (Service)] > [コントロールセンター (Control Center)] を選択します。  
[コントロールセンター (Control Center)] ウィンドウが表示されます。[サービス名 : データベース (Service Name-Database)] 列に [データベースの同期 (Database Synchronization)] が表示されます。
- ステップ 2** 対応する [操作 (Action)] 列の [無効 (Disable)] をクリックします。
- 

## 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

# 学習パターン

コール制御ディスカバリが Cisco Unified Communications Manager クラスタ上に設定されている場合、学習パターン (リモート コール制御エンティティからのホスト DN パターン) を番号分析の Digit Analysis キャッシュへ動的に挿入できます。

学習パターンは RTMT で表示できます。

学習パターンの追加/削除/更新

学習パターンを追加、削除、および更新するには、次の手順を使用します。

## 手順

- 
- ステップ 1** 学習パターンを追加/削除/更新するには、DNA UI から [サービス (Service)] > [コントロールセンター (Control Center)] を選択します。
- ステップ 2** [コントロールセンター (Control Center)] ウィンドウが表示されます。
- a) 学習パターンを追加するには、[学習パターン (Learned Patterns)] フィールドの [追加 (Add)] をクリックします。  
[学習パターン (Learned Patterns)] が追加されると、[DNA コントロールセンター (DNA Control Center)] ウィンドウがリロードされ、[更新 (Update)] オプションと [削除 (Remove)] オプションが表示されます。
- (注) DNA を再起動する場合、学習パターンを再度追加する必要があります。
- b) 学習パターンを削除するには、[学習パターン (Learned Patterns)] フィールドの [削除 (Remove)] をクリックします。  
[学習パターン (Learned Patterns)] が削除されると、[DNA コントロールセンター (DNA Control center)] ウィンドウがリロードされ、[追加 (Add)] オプションだけが表示されます。

- c) 学習パターンを更新するには、[学習パターン (Learned Patterns)] フィールドの[更新 (Update)] をクリックします。

[学習パターン (Learned Patterns)] が更新されると、[DNA コントロールセンター (DNA Control center)] ウィンドウがリロードされ、[更新 (Update)] オプションと [削除 (Remove)] オプションが表示されます。

(注) 学習パターンの新しいリストが生成されても、DNA は自動的に更新されない点に注意してください。学習パターンを更新するには、[更新 (Update)] をクリックする必要があります。

詳細情報

『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「Call Control Discovery」の章。

## 単純な分析の実行

単純な分析を実行するには、発呼側および着呼側の番号を Dialed Number Analyzer に入力し、分析するコーリングサーチスペースを選択します。Dialed Number Analyzer は、このコーリングサーチスペースを使用して、ダイヤルされた番号を分析します。特定のデバイスを選択する必要はありません。また、他の入力は不要です。Dialed Number Analyzer を使用すると、ルートパターン、トランスレーションパターン、電話の DN、または CTI ルートポイントを分析できます。

この手順を使用するのは、ダイヤル番号を入力し、コーリングサーチスペースを選択し、分析する発呼側の日時を入力するという簡単な分析を実行する場合だけです。この手順を使用して取得される [発呼側情報 (Calling Party Information)] セクションの分析結果には、パーティション、AAR コーリングサーチスペースなどの詳細情報は表示されません。番号をダイヤルする特定のデバイスを選択しないため、Cisco Unified Communications Manager システムに設定されているデバイスと関連付けられていない発呼側番号を入力します。

分析する [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドおよび [発呼側 (Calling Party)] フィールドには、数字、記号 (# および \*)、およびアルファベット (A、a、B、b、C、c、D、d) を入力できます。

単純な分析を実行するには、Dialed Number Analyzer にアクセスし、次の手順を使用します。

## はじめる前に



(注) Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day) ]ルーティングを有効にしている場合、分析するタイムゾーン、日付、時間の設定を選択する必要があります。分析に特定のタイムゾーンを選択した場合でも、DNA の出力が異なります。たとえば、コールが目的のタイムゾーンに実際にルーティングされるときに「コールをブロック」します。

次の例を検討してください。

- グリニッジ標準時 (GMT) は、DNA のデフォルトのタイムゾーンで、時刻を計算するのに使用されます。
- 時刻の設定を実施する場合、GMT に準拠して日時を設定する必要があります。
- GMT+9 のタイムゾーンの場合、9:00 am ~ 6 pm (0900 ~ 1800) GMT の業務時間のスケジュールは、6:00 pm ~ 3:00 am (18:00 ~ 03:00) (つまり GMT+9) のコールをルーティングします。

## 手順

- ステップ 1** [分析 (Analysis) ] > [アナライザ (Analyzer) ] を選択します。  
[アナライザ (Analyzer) ] ウィンドウが表示されます。このウィンドウでアナライザの入力を指定します。
- ステップ 2** [アナライザの入力 (Analyzer Input) ] の下で、次のいずれかのフィールドに発呼側情報を入力します。
- 電話番号、ディレクトリ番号、または SIP ルートパターン of のいずれかを発呼側情報に使用する場合は、[発呼側 (Calling Party) ] フィールドに数字を入力します。デフォルトでは、このオプションが選択され、フィールドに 1000 が表示されます。
  - ディレクトリ URI を使用する場合は、[ディレクトリ URI (Directory URI) ] オプション ボタンをクリックし、[ディレクトリ番号 URI (Directory Number URI) ] フィールドに URI アドレスを入力します。
- ステップ 3** [ダイヤル番号設定 (Dialed Digit Settings) ] の下で、関連するフィールドに着呼側の情報を入力します。
- 電話番号またはディレクトリ番号をダイヤルする場合は、ダイヤルする番号の数字を [ダイヤル番号 (Dialed Digits) ] フィールドに入力します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
  - ディレクトリ URI をダイヤルする場合は、[ディレクトリ URI (Directory URI) ] オプション ボタンをクリックし、[ディレクトリ番号 URI (Directory Number URI) ] フィールドに URI アドレスを入力します。

- (注) 完全修飾形式 (たとえば、`pattern@domain`) でパターンをインポートされたサードパーティの +E.164 で分析を実行する場合は、[ディレクトリ URI (Directory URI)] フィールドにパターンを入力して、ドメインルーティングを使用します。または、[ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドにパターンを入力できます。

**ステップ 4** 必要に応じて、[パターン分析 (Pattern Analysis)] フィールドで [SIP 分析 (SIP Analysis)] に対応するチェックボックスをオンにします。また、[ドメインルート (Domain Route)] または [IP ルート (IP Route)] を選択します。

- (注) Session Initiation Protocol (SIP) 分析を実行する場合、Cisco Unified Communications Manager の管理で [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)] を設定します。詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

- (注) SIP をサポートする電話および SIP トランクの場合にだけ SIP 分析を実行できます。

**ステップ 5** [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスから、ダイヤル番号の分析に使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、検索対象のパーティションのコレクションで構成され、ダイヤル番号のルーティング方法を定めるために使用されます。

**ステップ 6** [デバイスタイムゾーン (Device Time Zone)] ドロップダウンボックスから、発呼側のタイムゾーンを選択します。タイムゾーンがデフォルトで表示されます。このタイムゾーンは、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのオペレーティングシステムのタイムゾーン情報を示します。

- (注) このタイムゾーンが分析に使用されるのは、Cisco Unified Communications Manager の [パーティションの設定 (Partition Configuration)] ウィンドウでパーティションのタイムゾーン設定を [発信側デバイス (Originating Device)] に設定した場合だけです。

**ステップ 7** Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングを有効にしている場合、分析するタイムゾーン、日付、時間の設定を選択します。[時刻 (Time of Day)] ルーティングが有効ではない場合、デフォルト設定のままにします。

[日付 (Date)] と [時間 (Time)] のドロップダウンリストボックスには、デフォルトでローカルの日時が表示されます。この日時は、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのオペレーティングシステムの日時情報を示します。

- a) [タイムゾーン (Time Zone)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用するタイムゾーンを選択します。グリニッジ標準時 (GMT) がデフォルトで表示されます。
- b) [日付 (Date)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する年、月、および日を選択します。
- c) [時間 (Time)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する時間、分、秒、およびミリ秒を選択します。

**ステップ 8** 分析を開始するには、[分析の実行 (Do Analysis)] をクリックします。また、フィールドをクリアしてデータを再入力するには、[クリア (Clear)] をクリックします。

[分析の実行 (Do Analysis)] をクリックした後、Dialed Number Analyzer によってダイヤル番号が分析され、[DNA 分析出力 (DNA Analysis Output)] ウィンドウと呼ばれる新しいウィンドウに結

果が表示されます。結果は単に表示するだけでなく、PC上にファイル形式で保存して後で利用することもできます。

- ステップ 9** 結果を保存するには、[DNA 分析出力 (DNA Analysis Output) ] ウィンドウの右上隅にある [保存 (Save) ] をクリックします。  
[ファイルのダウンロード (File Download) ] ダイアログが表示されます。
- ステップ 10** [保存 (Save) ] をクリックします。  
[名前を付けて保存 (Save As) ] ダイアログが表示されます。ファイルを保存する PC 上の場所を参照します。
- ステップ 11** [保存 (Save) ] をクリックします。  
PC 上の XML ファイルに結果が保存されます。次の命名規則でファイルが保存されます。  
dnaOutput\_<callingparty>\_<dialedigits>.xml  
この <callingparty> と <dialedigits> には、それぞれ [発呼側 (Calling Party) ] フィールドと [ダイヤル番号 (Dialed Digits) ] フィールドに入力した数字が指定されます。
- ステップ 12** [ダウンロードの完了 (Download Complete) ] ダイアログボックスの [閉じる (Close) ] をクリックし、[名前を付けて保存 (Save As) ] 手順を完了します。  
(注) 保存した XML ファイルをブラウザで表示する手順については、[出力ファイルの表示, \(79 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 13** [DNA 分析出力 (DNA Analysis Output) ] ウィンドウを閉じます。

#### 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## 電話の分析

Dialed Number Analyzer の [電話 (Phones) ] ウィンドウでは、デバイスの名前、説明、ディレクトリ番号、ディレクトリ URI、コーリング サーチ スペース デバイス プール、デバイス タイプ、およびコールピックアップグループで電話を検索および表示できます。電話を検索し、分析対象の発信デバイスとして選択できます。さらに設定した電話回線 (ディレクトリ番号) を選択し、それを発呼側番号として使用できます。

電話と電話回線を選択し、その電話回線を使用して分析を実行するには、次のトピックを参照してください。

- [電話機の検索, \(16 ページ\)](#)
- [電話回線の選択, \(17 ページ\)](#)
- [電話での分析の実行, \(18 ページ\)](#)

## 電話機の検索

Dialed Number Analyzer で電話を特定し、その電話からのダイヤル番号の分析に使用できます。電話を特定するには、次の手順を使用します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [分析 (Analysis) ] > [電話 (Phones) ] を選択します。  
[電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [電話の検索条件 (Find Phones where) ] の最初のドロップダウンリスト ボックスから、次の基準の 1 つを選択します。
- a) デバイス名 (Device Name)
  - b) 説明
  - c) [電話番号 (Directory Number) ]
  - d) Directory URI
  - e) [代替番号 (Alternate Number) ]
  - f) [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ]
  - g) [デバイスプール (Device Pool) ]
  - h) 電話のタイプ (Phone Type)
  - i) コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)
  - j) LSC ステータス (LSC Status)
  - k) 認証文字列 (Authentication String)
  - l) デバイス プロトコル (Device Protocol)
  - m) セキュリティ プロファイル (Security Profile)
    - (注) このドロップダウンリストボックスで選択した基準で、電話のリストの表示方法が決まります。たとえば、[デバイス名 (Device Name) ] を選択すると、結果リストの左側の列に [デバイス名 (Device Name) ] 列が表示されます。
    - (注) [電話番号 (Directory Number) ]、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ]、または [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group) ] を選択すると、データベースで使用できるオプションが表示されます。
- ステップ 3** [電話の検索条件 (Find Phones where) ] の 2 番目のドロップダウンリスト ボックスから、次の基準の 1 つを選択します。
- a) が次の文字列で始まる (begins with)
  - b) が次の文字列を含む (contains)
  - c) が次の文字列で終わる (ends with)
  - d) が次の文字列と等しい (is exactly)
  - e) が空ではない (is not empty)
  - f) が空である (is empty)



(注) 最初のフィールドで [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space) ]、[デバイス プール (Device Pool) ]、[デバイス タイプ (Device Type) ]、または [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group) ] を選択した場合、このフィールドのドロップダウン リストから値を選択できます。

**ステップ 4** ウィンドウごとに表示する項目数を指定します。

**ステップ 5** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find) ] をクリックします。

**ヒント** すべての電話を検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find) ] をクリックするか、[電話の検索条件 (Find Phones where) ] の最初のドロップダウン リストボックスで [デバイス名 (Device Name) ] を選択し、2 番目のドロップダウン リストボックスで [が空ではない (is not empty) ] を選択します。

基準に一致する検索された電話のリストが表示されます。

このウィンドウには、表示されるレコードの合計数も示されます。

**ステップ 6** 検索された電話の次のリストを表示するには、[次へ (Next) ] をクリックします。

**ステップ 7** レコードのリストから、開くレコードをクリックします。

[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 8** [電話回線の選択](#)、(17 ページ) に進みます。

#### 関連トピック

[関連項目](#)、(81 ページ)

## 電話回線の選択

分析に使用する電話を指定した後は、システムに設定されている電話回線を選択する必要があります。電話回線を発呼側として選択するには、次の手順を使用します。

#### 手順

**ステップ 1** [電話機の検索](#)、(16 ページ) で説明した手順を実行して、発呼側デバイスとして使用する電話を検索します。

[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウの [デバイス情報 (Device Information) ] 列に、デバイスに関する情報が表示されます。マシンのアドレス (MAC アドレス)、電話が属するデバイス プール、コーリング サーチ スペース、AAR コーリング サーチ スペース、[メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List) ] の詳細、およびデバイスのタイムゾーンが表示されます。

**ステップ 2** レコードのリストから、必要な電話回線の [回線 (Line) ] オプション ボタンをクリックして電話回線を選択します。

(注) [電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones) ] ウィンドウに戻るには、ウィンドウの右上のドロップダウン リストボックスから [電話の検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List Phones) ] を選択し、[移動 (Go) ] をクリックします。

ステップ3 電話での分析の実行, (18 ページ) の手順に進みます。

---

#### 関連トピック

関連項目, (81 ページ)

## 電話での分析の実行

電話を指定し、電話回線を選択すると、分析対象のダイヤル番号を入力できます。ここでは、選択した電話回線を使用して分析を実行する方法について説明します。

#### 手順

---

- ステップ1 電話機の検索, (16 ページ) の手順を実行して、発呼側デバイスとして使用する電話を検索します。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- (注) Cisco Unified Communications Manager で電話に設定されているタイムゾーンが [デバイスタイムゾーン (Device Time Zone)] フィールドに表示されます。
- ステップ2 電話回線の選択, (17 ページ) の手順を実行して、電話回線を選択します。
- ステップ3 [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] 設定の下で、関連するフィールドに着呼側の情報を入力します。
- 電話番号、ディレクトリ番号、または SIP ルートパターンをダイヤルする場合は、ダイヤルする番号の数字を [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに入力します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
  - ディレクトリ URI をダイヤルする場合は、[ディレクトリ URI (Directory URI)] オプションボタンをクリックし、[ディレクトリ番号 URI (Directory Number URI)] フィールドに URI アドレスを入力します。
- ステップ4 必要に応じて、[パターン分析 (Pattern Analysis)] フィールドで [SIP 分析 (SIP Analysis)] に対応するチェックボックスをオンにします。また、[ドメインルート (Domain Route)] または [IP ルート (IP Route)] を選択します。
- (注) Session Initiation Protocol (SIP) 分析を実行する場合、Cisco Unified Communications Manager の管理で [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)] を設定します。詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- (注) SIP をサポートする電話および SIP トランクの場合にだけ SIP 分析を実行できます。
- ステップ5 Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングを有効にしている場合、分析するタイムゾーン、日付、時間の設定を選択します。[時刻 (Time of Day)] ルーティングが有効ではない場合、デフォルト設定のままにします。デフォルトではローカルの日時が表示されます。この日時は、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのオペレーティングシステムのタイムゾーン情報を示します。

- a) [タイムゾーン (Time Zone)] ドロップダウン リスト ボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用するタイムゾーンを選択します。グリニッジ標準時 (GMT) がデフォルトで表示されます。
- b) [日付 (Date)] ドロップダウン リスト ボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する年、月、および日を選択します。
- c) [時間 (Time)] ドロップダウン リスト ボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する時間、分、秒、およびミリ秒を選択します。

**ステップ 6** [分析の実行 (Do Analysis)] をクリックします。  
選択した電話回線と分析対象のデバイスのコーリング サーチ スペースが Dialed Number Analyzer によって選択されます。[DNA 分析出力 (DNA Analysis Output)] という新しいウィンドウに結果が表示されます。結果は単に表示するだけでなく、PC 上にファイル形式で保存して後で利用することもできます。

**ステップ 7** 結果を保存するには、ウィンドウの右上の [保存 (Save)] をクリックします。  
[ファイルのダウンロード (File Download)] ダイアログが表示されます。

**ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。  
[名前を付けて保存 (Save As)] ダイアログが表示されます。ファイルを保存する PC 上の場所を参照します。

**ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。  
PC 上の XML ファイルに結果が保存されます。次の命名規則でファイルが保存されます。  
DialedNumberAnalyzerOutput\_<dialeddigits>.xml  
<dialeddigits> には、[ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに入力したダイヤル番号が指定されます。

**ステップ 10** [名前を付けて保存 (Save As)] 手順を完了するには、[ダウンロードの完了 (Download Complete)] ダイアログボックスの [閉じる (Close)] をクリックします。  
(注) 保存した XML ファイルをブラウザで表示する手順については、[出力ファイルの表示](#)、(79 ページ) を参照してください。

**ステップ 11** [DNA 分析出力 (DNA Analysis Output)] ウィンドウを閉じます。  
(注) [DNA 分析出力 (DNA Analysis Output)] ウィンドウのフィールドに新しいデータを入力し、もう一度分析を実行するには、[電話の分析](#)、(15 ページ) の手順を実行します。

#### 関連トピック

[関連項目](#)、(81 ページ)

## ゲートウェイの分析

Dialed Number Analyzer では、Cisco Unified Communications Manager で受信されるインバウンドコールが経由するゲートウェイを検索し、一覧表示できます。ゲートウェイのリストから、番号をダイヤルするゲートウェイ エンドポイントを選択し、Cisco Unified Communications Manager シ

システムへのインバウンドコールのコールフローを分析できます。Cisco Unified Communications Manager システムで設定されているゲートウェイ エンドポイントを選択できます。

ゲートウェイの検索、ゲートウェイ エンドポイントの選択、ダイヤル番号の入力、および分析の実行については、次のトピックを参照してください。

- [ゲートウェイの検索, \(20 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ エンドポイントの選択, \(21 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ分析の実行, \(30 ページ\)](#)

## ゲートウェイの検索

デバイス名、説明、DN/ルート パターン、デバイス タイプ、コーリング サーチ スペース、ルートグループ、およびデバイスプールでゲートウェイを検索および表示できます。ここでは、ゲートウェイを検索する手順について説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [分析 (Analysis) ] > [ゲートウェイ (Gateways) ] を選択します。  
[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ゲートウェイの検索条件 (Find gateways where) ] の最初のドロップダウンリストボックスから、次の基準の 1 つを選択します。
- a) [名前 (Name) ]
  - b) 説明
  - c) DN/ルート パターン (DN/Route Pattern)
  - d) コーリング サーチ スペース名 (Calling Search Space Name)
  - e) [デバイスプール名 (Device Pool Name) ]
  - f) [ルートグループ名 (Route Group Name) ]
  - g) ゲートウェイ タイプ (Gateway Type)
- (注) このドロップダウンリストボックスで選択した基準で、ゲートウェイのリストの表示方法が決まります。たとえば、[デバイス名 (Device Name) ] を選択すると、結果リストの左側の列に [デバイス名 (Device Name) ] 列が表示されます。
- (注) [DN/ルート パターン (DN/Route Pattern) ]、[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space) ]、または [ルートグループ (Route Group) ] を選択すると、データベースで使用できるオプションが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイの検索条件 (Find gateways where) ] の 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次の基準の 1 つを選択します。
- a) が次の文字列で始まる (begins with)
  - b) が次の文字列を含む (contains)
  - c) が次の文字列と等しい (is exactly)
  - d) が次の文字列で終わる (ends with)

e) が空ではない (is not empty)

f) が空である (is empty)

(注) 最初のフィールドで [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space) ]、[デバイス プール (Device Pool) ]、[ルート グループ (Route Group) ]、または [デバイス タイプ (Device Type) ] を選択した場合、このフィールドのドロップダウン リストから値を選択できます。

**ステップ 4** ウィンドウごとに表示する項目数を指定します。

**ステップ 5** ゲートウェイのエンドポイントを表示するか非表示にするかを指定します。

**ステップ 6** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find) ] をクリックします。

**ヒント** すべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find) ] をクリックするか、[ゲートウェイの検索条件 (Find gateways where) ] の最初のドロップダウン リスト ボックスで [デバイス名 (Device Name) ] を選択し、2 番目のドロップダウン リスト ボックスで [が空ではない (is not empty) ] を選択します。

基準に一致するゲートウェイのリストが表示されます。表示される情報は、ゲートウェイのモデルによって異なります。

また、このウィンドウにはデバイスの合計数も表示されます。

**ステップ 7** 検索されたゲートウェイの次のリストを表示するには、[次へ (Next) ] をクリックします。

## ゲートウェイ エンドポイントの選択

検索基準に一致するゲートウェイを検索した後は、ゲートウェイ エンドポイントを選択し、発呼側および着呼側の情報を入力する必要があります。ゲートウェイ エンドポイントを選択するには、次の手順を使用します。

### 手順

**ステップ 1** [ゲートウェイの検索](#)、(20 ページ) の手順を使用して、使用するゲートウェイを検索します。

**ステップ 2** [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways) ] ウィンドウに表示されるレコードのリストから、ゲートウェイを選択します。次のゲートウェイ タイプから選択します。

- a) Cisco IOS MGCP ゲートウェイ
- b) 非 IOS MGCP ゲートウェイ
- c) Cisco IOS H.323 ゲートウェイ
- d) アナログ アクセス ゲートウェイ
- e) Cisco VG248 Analog Phone ゲートウェイ
- f) Cisco IOS SCCP ゲートウェイ

ゲートウェイ タイプに応じて異なる情報が表示されます。

各ゲートウェイ タイプのゲートウェイ エンドポイントを選択するには、次のトピックを参照してください。

- g) [IOS ゲートウェイの選択](#), (22 ページ)
  - h) [非 IOS ゲートウェイの選択](#), (25 ページ)
  - i) [IOS H.323 ゲートウェイの選択](#), (26 ページ)
  - j) [アナログアクセスゲートウェイの選択](#), (27 ページ)
  - k) [アナログ電話ゲートウェイの選択](#), (29 ページ)
- 

## IOS ゲートウェイの選択

検索基準に一致するゲートウェイを検索すると、Cisco IOS MGCP ゲートウェイ エンドポイントおよび Cisco IOS SCCP ゲートウェイを選択できます。次に Cisco IOS MGCP ゲートウェイを示します。

- Cisco 音声ゲートウェイ 200 (VG200)
- Cisco IOS 269X、26XX、364X、366X、3725、3745 ゲートウェイ
- Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
- Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch
- Communication Media Module
- Cisco IAD2400

分析する Cisco IOS MGCP/IOS SCCP ゲートウェイ エンドポイントを選択するには、次の手順を使用します。

### 手順

[ゲートウェイの検索](#), (20 ページ) の手順を使用して、使用するゲートウェイを検索します。Cisco IOS MGCP/IOS SCCP ゲートウェイ エンドポイントにアクセスするには、2つの方法があります。[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウからエンドポイント識別子に直接アクセスする方法と、新しいウィンドウで設定されているすべてのエンドポイントのリストを表示してから、エンドポイントの1つを選択する方法です。

次の手順のいずれかを使用します。

- a) [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウに表示されるレコードのリストから、使用するゲートウェイをクリックします。
  - [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが開き、インストールされている音声インターフェイスカードとの各カードのエンドポイント識別子が表示されます。エンドポイント識別子は、選択したデバイスに設定されているポートを示します。
  - エンドポイント識別子のリストから、必要なエンドポイントをクリックします。対応するウィンドウが開き、ゲートウェイおよびポートの情報が表示されます。

(注) Cisco Unified Communications Manager でゲートウェイに設定されているタイムゾーンが [デバイス タイムゾーン (Device Time Zone)] フィールドに表示されます。

- [発呼側 (Calling Party)] フィールドに、このエンドポイントに設定されている発呼側番号が表示されます。
  - [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに、ダイヤルする番号を入力します。
  - 必要に応じて、[パターン分析 (Pattern Analysis)] フィールドで [SIP 分析 (SIP Analysis)] に対応するチェックボックスをオンにします。また、[ドメインルート (Domain Route)] または [IP ルート (IP Route)] を選択します。
    - (注) Session Initiation Protocol (SIP) 分析を実行する場合、Cisco Unified Communications Manager の管理で [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)] を設定します。詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
    - (注) SIP をサポートする電話および SIP トランクの場合にだけ SIP 分析を実行できません。
  - Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングを有効にした場合だけ、分析のタイムゾーン、日付、および時間の設定を選択します。それ以外の場合は、デフォルト設定のままにします。
    - (注) デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのオペレーティングシステムの日時情報を示すローカルの日時が表示されます。Cisco Unified Communications Manager のシステム時刻とは異なる日付および時間の設定を選択することもできます。
- [タイムゾーン (Time Zone)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用するタイムゾーンを選択します。グリニッジ標準時 (GMT) がデフォルトで表示されます。
- [日付 (Date)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する年、月、および日を選択します。
- [時間 (Time)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する時間、分、秒、およびミリ秒を選択します。
- [分析の実行 (Do Analysis)] をクリックして、ダイヤル番号のコールフローを分析します。
  - [ゲートウェイ分析の実行, \(30 ページ\)](#) の手順を実行して、分析の手順を完了します。

- b) [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウに表示されるレコードのリストから、使用するレコードの [エンドポイントを参照 (See Endpoints)] リンクをクリックします。
- 新しいウィンドウにエンドポイントが表示されます。分析対象に BRI およびアナログ エンドポイントを選択できます。
- 新しいウィンドウのエンドポイントのリストから、使用するレコードをクリックします。[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが開き、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] および [ポート情報 (Port Information)] が表示されます。
    - (注) Cisco Unified Communications Manager でエンドポイントに設定されているタイムゾーンが [デバイス タイムゾーン (Device Time Zone)] フィールドに表示されます。



- [発呼側 (Calling Party) ] フィールドに、このエンドポイントに設定されている発呼側番号が表示されます。
  - [ダイヤル番号 (Dialed Digits) ] フィールドに、ダイヤルする番号を入力します。
  - 必要に応じて、[パターン分析 (Pattern Analysis) ] フィールドで [SIP 分析 (SIP Analysis) ] に対応するチェックボックスをオンにします。また、[ドメインルート (Domain Route) ] または [IP ルート (IP Route) ] を選択します。
    - (注) Session Initiation Protocol (SIP) 分析を実行する場合、Cisco Unified Communications Manager の管理で [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern) ] を設定します。詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
    - (注) SIP をサポートする電話および SIP トランクの場合にだけ SIP 分析を実行できません。
  - Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day) ] ルーティングを有効にしている場合、分析するタイムゾーン、日付、時間の設定を選択します。Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day) ] ルーティングが有効になっていない場合は、デフォルト設定のままにします。
    - (注) デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのオペレーティングシステムの日時情報を示すローカルの日時が表示されます。Cisco Unified Communications Manager のシステム時刻とは異なる日付および時間の設定を選択することもできます。
- [タイムゾーン (Time Zone) ] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用するタイムゾーンを選択します。グリニッジ標準時 (GMT) がデフォルトで表示されます。
- [日付 (Date) ] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する年、月、および日を選択します。
- [時間 (Time) ] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する時間、分、秒、およびミリ秒を選択します。
- ダイヤル番号のコールフローを分析するには、[分析の実行 (Do Analysis) ] をクリックします。  
[ゲートウェイ分析の実行, \(30 ページ\)](#) の手順を実行して、分析の手順を完了します。
- (注) ゲートウェイには、複数のエンドポイントがある設定済みのポートが 1 つまたは複数含まれます。[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration) ] ウィンドウの左フレームには、選択したゲートウェイのすべてのポートが表示されます。別のエンドポイントの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration) ] ウィンドウを表示するには、そのエンドポイントをクリックします。
  - (注) [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration) ] ウィンドウの右上または右下の [関連リンク (Related Links) ] ドロップダウンリストボックスから [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration) ] を選択し、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration) ] ウィンドウに戻ります。[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways) ] ウィンドウの検索されたゲートウェイに戻るには、[ゲートウェイの検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List Gateways) ] を選択します。



## 関連トピック

[関連項目](#), (81 ページ)

## 非 IOS ゲートウェイの選択

検索基準に一致するゲートウェイを検索すると、非 IOS MGCP ゲートウェイ エンドポイントを選択できます。次に非 IOS MGCP ゲートウェイを示します。

- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway
- Cisco DT-24+ または DE-30+ Digital Access Trunk Gateway

分析する非 IOS MGCP ゲートウェイ エンドポイントを選択するには、次の手順を使用します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [ゲートウェイの検索](#), (20 ページ) の手順を使用して、使用するゲートウェイを検索します。
- ステップ 2** [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウに表示されるレコードのリストから、使用する非 IOS MGCP ゲートウェイをクリックします。  
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが開き、[デバイス情報 (Device Information)] および [コールルーティング情報 (Call Routing Information)] が表示されます。
- (注) Cisco Unified Communications Manager でゲートウェイに設定されているタイムゾーンが [タイムゾーン (Time Zone)] フィールドに表示されます。
- ステップ 3** [発呼側 (Calling Party)] フィールドに、このエンドポイントに設定されている発呼側番号が表示されます。
- ステップ 4** [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに、ダイヤルする番号を入力します。
- ステップ 5** 必要に応じて、[パターン分析 (Pattern Analysis)] フィールドで [SIP 分析 (SIP Analysis)] に対応するチェックボックスをオンにします。また、[ドメインルート (Domain Route)] または [IP ルート (IP Route)] を選択します。
- (注) Session Initiation Protocol (SIP) 分析を実行する場合、Cisco Unified Communications Manager の管理で [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)] を設定します。詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- (注) SIP をサポートする電話および SIP トランクの場合にだけ SIP 分析を実行できません。
- ステップ 6** Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングを有効にしている場合、分析するタイムゾーン、日付、時間の設定を選択します。Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングが有効になっていない場合は、デフォルト設定のままにします。

(注) デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのオペレーティングシステムの日時情報を示すローカルの日時が表示されます。Cisco Unified Communications Manager のシステム時刻とは異なる日付および時間の設定を選択することもできます。

- a) [タイムゾーン (Time Zone)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用するタイムゾーンを選択します。グリニッジ標準時 (GMT) がデフォルトで表示されます。
- b) [日付 (Date)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する年、月、および日を選択します。
- c) [時間 (Time)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する時間、分、秒、およびミリ秒を選択します。

**ステップ 7** ダイヤル番号のコールフローを分析するには、[分析の実行 (Do Analysis)] をクリックします。

**ステップ 8** [ゲートウェイ分析の実行](#)、(30 ページ) の手順を実行して、分析の手順を完了します。

(注) ウィンドウの右上または右下の [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [ゲートウェイの検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List Gateways)] を選択し、[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウの検索されたゲートウェイに戻ります。

#### 関連トピック

[関連項目](#)、(81 ページ)

## IOS H.323 ゲートウェイの選択

検索基準に一致するゲートウェイのリストを検索すると、Cisco IOS H.323 ゲートウェイ エンドポイントを選択できます。分析する Cisco IOS H.323 ゲートウェイ エンドポイントを選択するには、次の手順を使用します。

#### 手順

**ステップ 1** [ゲートウェイの検索](#)、(20 ページ) の手順を使用して、使用するゲートウェイを検索します。

**ステップ 2** [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウに表示されるレコードのリストから、使用する Cisco IOS H.323 ゲートウェイをクリックします。[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが開き、[デバイス情報 (Device Information)] および [コールルーティング情報 (Call Routing Information)] が表示されます。

(注) Cisco Unified Communications Manager でゲートウェイに設定されているタイムゾーンが [タイムゾーン (Time Zone)] フィールドに表示されます。

- ステップ 3** [発呼側 (Calling Party)] フィールドに、このエンドポイントに設定されている発呼側番号が表示されます。
- ステップ 4** [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに、ダイヤルする番号を入力します。
- ステップ 5** 必要に応じて、[パターン分析 (Pattern Analysis)] フィールドで [SIP 分析 (SIP Analysis)] に対応するチェックボックスをオンにします。また、[ドメインルート (Domain Route)] または [IP ルート (IP Route)] を選択します。
- (注) Session Initiation Protocol (SIP) 分析を実行する場合、Cisco Unified Communications Manager の管理で [SIP ルート パターン (SIP Route Pattern)] を設定します。詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
  - (注) SIP をサポートする電話および SIP トランクの場合にだけ SIP 分析を実行できません。
- ステップ 6** Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングを有効にしている場合、分析するタイムゾーン、日付、時間の設定を選択します。Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングが有効になっていない場合は、デフォルト設定のままにします。
- (注) デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのオペレーティングシステムの日時情報を示すローカルの日時が表示されます。Cisco Unified Communications Manager のシステム時刻とは異なる日付および時間の設定を選択することもできます。
- a) [タイムゾーン (Time Zone)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用するタイムゾーンを選択します。グリニッジ標準時 (GMT) がデフォルトで表示されます。
  - b) [日付 (Date)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する年、月、および日を選択します。
  - c) [時間 (Time)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する時間、分、秒、およびミリ秒を選択します。
- ステップ 7** ダイヤル番号のコールフローを分析するには、[分析の実行 (Do Analysis)] をクリックします。
- ステップ 8** [ゲートウェイ分析の実行 \(30 ページ\)](#) の手順を実行して、分析の手順を完了します。
- (注) ウィンドウの右上または右下の [ゲートウェイの検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List Gateways)] リンクをクリックして、[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウの検索されたゲートウェイに戻ります。

#### 関連トピック

[関連項目 \(81 ページ\)](#)

## アナログ アクセス ゲートウェイの選択

検索基準に一致するゲートウェイのリストを検索すると、アナログ アクセス ゲートウェイ エンドポイントを選択できます。アナログ アクセス ゲートウェイは、Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS ゲートウェイから構成されます。

分析するアナログアクセスゲートウェイエンドポイントを選択するには、次の手順を使用します。

## 手順

- 
- ステップ 1** **ゲートウェイの検索**、(20 ページ) の手順を使用して、使用するゲートウェイを検索します。
- ステップ 2** [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウに表示されるレコードのリストから、使用するアナログアクセスゲートウェイをクリックします。  
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが開き、ゲートウェイに設定されているすべてのポートが左フレームに表示されます。
- (注) Cisco Unified Communications Manager でゲートウェイに設定されているタイムゾーンが [タイムゾーン (Time Zone)] フィールドに表示されます。
- ステップ 3** 発信に必要なポートをクリックします。  
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [発呼側 (Calling Party)] フィールドに、このエンドポイントに設定されている発呼側番号が表示されます。
- ステップ 5** [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに、ダイヤルする番号を入力します。
- ステップ 6** 必要に応じて、[パターン分析 (Pattern Analysis)] フィールドで [SIP 分析 (SIP Analysis)] に対応するチェックボックスをオンにします。また、[ドメインルート (Domain Route)] または [IP ルート (IP Route)] を選択します。
- (注) Session Initiation Protocol (SIP) 分析を実行する場合、Cisco Unified Communications Manager の管理で [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)] を設定します。詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- (注) SIP をサポートする電話および SIP トランクの場合にだけ SIP 分析を実行できます。
- (注) SIP コールは SIP トランク経由で発信する必要があります。
- ステップ 7** Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングを有効にしている場合、分析するタイムゾーン、日付、時間の設定を選択します。Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングが有効になっていない場合は、デフォルト設定のままにします。
- (注) デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのオペレーティングシステムの日時情報を示すローカルの日時が表示されます。Cisco Unified Communications Manager のシステム時刻とは異なる日付および時間の設定を選択することもできます。
- a) [タイムゾーン (Time Zone)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用するタイムゾーンを選択します。グリニッジ標準時 (GMT) がデフォルトで表示されます。
- b) [日付 (Date)] ドロップダウンリストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する年、月、および日を選択します。

c) [時間 (Time) ] ドロップダウン リストボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する時間、分、秒、およびミリ秒を選択します。

**ステップ 8** ダイヤル番号のコールフローを分析するには、[分析の実行 (Do Analysis) ] をクリックします。

**ステップ 9** **ゲートウェイ分析の実行, (30 ページ)** の手順を実行して、分析の手順を完了します。  
(注) ウィンドウの右上または右下の [ゲートウェイの検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List Gateways) ] リンクをクリックして、[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways) ] ウィンドウの検索されたゲートウェイに戻ります。

### 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## アナログ電話ゲートウェイの選択

検索基準に一致するゲートウェイのリストを検索すると、Cisco VG248 Analog Phone ゲートウェイに適用可能な Cisco VG248 Analog Phone ゲートウェイ エンドポイントを選択できます。分析する Cisco VG248 Analog Phone ゲートウェイ エンドポイントを選択するには、次の手順を使用します。

### 手順

**ステップ 1** **ゲートウェイの検索, (20 ページ)** の手順を使用して、使用するゲートウェイを検索します。

**ステップ 2** [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways) ] ウィンドウに表示されるレコードのリストから、使用するゲートウェイをクリックします。  
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration) ] ウィンドウが開き、選択したゲートウェイに設定されているすべてのポートが表示されます。

(注) Cisco Unified Communications Manager でゲートウェイに設定されているタイムゾーンが [タイムゾーン (Time Zone) ] フィールドに表示されます。

**ステップ 3** 必要なポートを選択してクリックします。  
設定されていないポートをクリックすると、ポートが設定されていないことを通知するメッセージが表示されます。

設定されているポートを選択すると、[電話回線の選択 (Phone Line Selection) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** レコードのリストから、必要な電話回線の [回線 (Line) ] オプション ボタンをクリックします。

**ステップ 5** [ダイヤル番号 (Dialed Digits) ] フィールドに、ダイヤルする番号を入力します。

**ステップ 6** 必要に応じて、[パターン分析 (Pattern Analysis) ] フィールドで [SIP 分析 (SIP Analysis) ] に対応するチェックボックスをオンにします。また、[ドメインルート (Domain Route) ] または [IP ルート (IP Route) ] を選択します。

- (注) Session Initiation Protocol (SIP) 分析を実行する場合、Cisco Unified Communications Manager の管理で [SIP ルート パターン (SIP Route Pattern)] を設定します。詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- (注) SIP をサポートする電話および SIP トランクの場合にだけ SIP 分析を実行できません。

**ステップ 7** Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングを有効にしている場合、分析するタイムゾーン、日付、時間の設定を選択します。Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングが有効になっていない場合は、デフォルト設定のままにします。

- (注) デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのオペレーティングシステムの日時情報を示すローカルの日時が表示されます。Cisco Unified Communications Manager のシステム時刻とは異なる日付および時間の設定を選択することもできます。
- a) [タイムゾーン (Time Zone)] ドロップダウンリスト ボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用するタイムゾーンを選択します。グリニッジ標準時 (GMT) がデフォルトで表示されます。
- b) [日付 (Date)] ドロップダウンリスト ボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する年、月、および日を選択します。
- c) [時間 (Time)] ドロップダウンリスト ボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する時間、分、秒、およびミリ秒を選択します。

**ステップ 8** ダイヤル番号のコールフローを分析するには、[分析の実行 (Do Analysis)] をクリックします。

**ステップ 9** [ゲートウェイ分析の実行](#), (30 ページ) の手順を実行して、分析の手順を完了します。

- (注) ウィンドウの右上または右下の [ゲートウェイの検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List Gateways)] リンクをクリックして、[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウの検索されたゲートウェイに戻ります。

#### 関連トピック

[関連項目](#), (81 ページ)

## ゲートウェイ分析の実行

ゲートウェイ エンドポイントを選択し、分析の入力を指定すると、ダイヤル番号を分析できません。分析を実行するには、次の手順を使用します。



## 手順

- ステップ 1** [ゲートウェイの検索](#), (20 ページ) の手順を使用して、使用するゲートウェイを検索します。
- ステップ 2** [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウからゲートウェイ エンドポイントを選択します。ゲートウェイのタイプに応じた項の手順を参照して、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに発呼側または着呼側の情報を入力します。
- a) [IOS ゲートウェイの選択](#), (22 ページ)
  - b) [非 IOS ゲートウェイの選択](#), (25 ページ)
  - c) [IOS H.323 ゲートウェイの選択](#), (26 ページ)
  - d) [アナログアクセス ゲートウェイの選択](#), (27 ページ)
  - e) [アナログ電話ゲートウェイの選択](#), (29 ページ)
- ステップ 3** Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングを有効にしている場合、分析するタイムゾーン、日付、時間の設定を選択します。Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングが有効になっていない場合は、デフォルト設定のままにします。
- (注) デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのオペレーティングシステムの日時情報を示すローカルの日時が表示されます。Cisco Unified Communications Manager のシステム時刻とは異なる日付および時間の設定を選択することもできます。
- a) [タイムゾーン (Time Zone)] ドロップダウン リスト ボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用するタイムゾーンを選択します。グリニッジ標準時 (GMT) がデフォルトで表示されます。
  - b) [日付 (Date)] ドロップダウン リスト ボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する年、月、および日を選択します。
  - c) [時間 (Time)] ドロップダウン リスト ボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する時間、分、秒、およびミリ秒を選択します。
- ステップ 4** [分析の実行 (Do Analysis)] をクリックします。  
Dialed Number Analyzer では、選択したエンドポイントに指定したコーリングサーチスペースを使用し、ダイヤル番号を分析します。[DNA 分析出力 (DNA Analysis Output)] という新しいウィンドウに結果が表示されます。結果は単に表示するだけでなく、PC 上にファイル形式で保存して後で利用することもできます。
- ステップ 5** 結果を保存するには、ウィンドウの右上の [保存 (Save)] をクリックします。  
[ファイルのダウンロード (File Download)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。  
[名前を付けて保存 (Save As)] ダイアログが表示されます。ファイルを保存する PC 上の場所を参照します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。  
PC 上の XML ファイルに結果が保存されます。次の命名規則でファイルが保存されます。  
dnaOutput\_<callingparty>\_<dialeddigits>.xml

この <callingparty> および <dialedigits> には、それぞれ [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドおよび [発呼側 (Calling Party)] フィールドに入力した発呼側およびダイヤル番号が指定されます。

- ステップ 8** [ダウンロードの完了 (Download Complete)] ダイアログボックスの [閉じる (Close)] をクリックし、[名前を付けて保存 (Save As)] 手順を完了します。  
 (注) 保存した XML ファイルをブラウザで表示する手順については、[出力ファイルの表示](#)、[\(79 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 9** [DNA 分析出力 (DNA Analysis Output)] ウィンドウを閉じます。

### 関連トピック

[関連項目](#)、[\(81 ページ\)](#)

## トランク分析

Dialed Number Analyzer にはトランクを検索および表示できる [トランク (Trunks)] ウィンドウがあり、このウィンドウでインバウンドのダイヤル番号を分析できます。トランクを検索および選択し、ダイヤル番号を分析するには、次のトピックを参照してください。

- [トランクの検索](#)、[\(32 ページ\)](#)
- [トランクの選択](#)、[\(33 ページ\)](#)
- [トランク分析の実行](#)、[\(34 ページ\)](#)

## トランクの検索

デバイス名、説明、コーリングサーチスペース、ルートパターン、デバイスプール、ルートグループ、およびデバイスタイプでトランクを検索および表示できます。ここでは、トランクを検索する手順について説明します。

### 手順

- ステップ 1** [分析 (Analysis)] > [トランク (Trunks)] を選択します。  
 [トランクの検索/一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [トランクの検索条件 (Find trunks where)] の最初のドロップダウンリストボックスから、次の基準の 1 つを選択します。
- a) デバイス名 (Device Name)
  - b) 説明
  - c) [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
  - d) ルートパターン



- e) [デバイスプール (Device Pool) ]
- f) ルート グループ
- g) トランク タイプ
  - (注) このドロップダウンリストボックスで選択した基準で、ゲートウェイのリストの表示方法が決まります。たとえば、[デバイス名 (Device Name) ]を選択すると、結果リストの左側の列に [デバイス名 (Device Name) ]列が表示されます。
  - (注) [ルート パターン (Route Pattern) ]、[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space) ]、または [ルート グループ (Route Group) ]を選択すると、データベースで使用できるオプションが表示されます。

**ステップ 3** [トランクの検索条件 (Find trunks where) ]の2番目のドロップダウンリストボックスから、次の基準の1つを選択します。

- a) が次の文字列で始まる (begins with)
- b) が次の文字列を含む (contains)
- c) が次の文字列で終わる (ends with)
- d) が次の文字列と等しい (is exactly)
- e) が空ではない (is not empty)
- f) が空である (is empty)
  - (注) 最初のフィールドで [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space) ]、[デバイスプール (Device Pool) ]、[ルート グループ (Route Group) ]、または [デバイス タイプ (Device Type) ]を選択した場合、このフィールドのドロップダウンリストから値を選択できます。

**ステップ 4** ウィンドウごとに表示する項目数を指定します。

**ステップ 5** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find) ]をクリックします。

**ヒント** すべてのトランクを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find) ]をクリックするか、[トランクの検索条件 (Find trunks where) ]の最初のドロップダウンリストボックスで [デバイス名 (Device Name) ]を選択し、2番目のドロップダウンリストボックスで [が空ではない (is not empty) ]を選択します。

検索基準に一致するトランクのリストが表示されます。

このウィンドウには、レコードの合計数も示されます。

**ステップ 6** 検索されたトランクの次のリストを表示するには、[次へ (Next) ]をクリックします。

#### 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## トランクの選択

必要なトランクを検索した後は、トランクを選択する必要があります。トランクを選択するには、次の手順を使用します。SIP トランクの分析を実行できます。

## 手順

- 
- ステップ 1** [トランクの検索, \(32 ページ\)](#) の手順を使用して、分析に使用するトランクを検索します。  
[トランクの検索/一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが開き、トランク情報が表示されず。
- ステップ 2** 必要なレコードをクリックして、レコードのリストからトランクを選択します。  
[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- 

## 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

# トランク分析の実行

トランクを特定および選択した後は、分析の入力を指定する必要があります。入力を指定し、分析を実行するには、次の手順を使用します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [トランクの検索, \(32 ページ\)](#) の手順を使用して、必要なトランクを検索します。
- ステップ 2** [トランクの選択, \(33 ページ\)](#) の手順を使用して、検索されたトランクのリストから必要なトランクを選択します。  
[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウが表示されます。選択したトランクのデバイス情報とコールルーティング情報が表示されます。
- (注) Cisco Unified Communications Manager でトランクに設定されているタイムゾーンが [デバイス タイムゾーン (Device Time Zone)] フィールドに表示されます。
- ステップ 3** [アナライザの入力 (Analyzer Input)] の下で、次のいずれかのフィールドに発呼側情報を入力します。
- 電話番号、ディレクトリ番号、または SIP ルートパターンのいずれかを発呼側情報に使用する場合は、[発呼側 (Calling Party)] フィールドに数字を入力します。デフォルトでは、Dial Number Analyzer によってこのオプションが選択されます。
  - ディレクトリ URI を使用する場合は、[ディレクトリ URI (Directory URI)] オプション ボタンをクリックし、[ディレクトリ URI (Directory URI)] フィールドにディレクトリ URI を入力します。
- ステップ 4** [ダイヤル番号設定 (Dialed Digit Settings)] の下で、次のいずれかのフィールドに着呼側の情報を入力します。

- 電話番号またはディレクトリ番号をダイヤルする場合は、ダイヤルする番号の数字を [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに入力します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- ディレクトリ URI をダイヤルする場合は、[ディレクトリ URI (Directory URI)] オプション ボタンをクリックし、[ディレクトリ URI (Directory URI)] フィールドにディレクトリ URI を入力します。

**ステップ 5** 必要に応じて、[パターン分析 (Pattern Analysis)] フィールドで [SIP 分析 (SIP Analysis)] に対応するチェックボックスをオンにします。また、[ドメインルート (Domain Route)] または [IP ルート (IP Route)] を選択します。

- (注) Session Initiation Protocol (SIP) 分析を実行する場合、Cisco Unified Communications Manager の管理で [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)] を設定します。詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- (注) SIP コールは SIP トランク経由で発信する必要があります。
- (注) SIP をサポートする電話および SIP トランクの場合にだけ SIP 分析を実行できます。

**ステップ 6** Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングを有効にしている場合、分析するタイムゾーン、日付、時間の設定を選択します。Cisco Unified Communications Manager で [時刻 (Time of Day)] ルーティングが有効になっていない場合は、デフォルト設定のままにします。

- (注) デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのオペレーティング システムの日時情報を示すローカルの日時が表示されます。デフォルトの Cisco Unified Communications Manager のシステム時刻とは異なる日付および時間の設定を選択することもできます。
- a) [タイムゾーン (Time Zone)] ドロップダウン リスト ボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用するタイムゾーンを選択します。グリニッジ標準時 (GMT) がデフォルトで表示されます。
- b) [日付 (Date)] ドロップダウン リスト ボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する年、月、および日を選択します。
- c) [時間 (Time)] ドロップダウン リスト ボックスから、Dialed Number Analyzer で分析に使用する時間、分、秒、およびミリ秒を選択します。

**ステップ 7** [分析の実行 (Do Analysis)] をクリックします。  
Dialed Number Analyzer では、トランクに指定したコーリング サーチ スペースを使用し、ダイヤル番号を分析します。[DNA 分析出力 (DNA Analysis Output)] という新しいウィンドウに結果が表示されます。結果は単に表示するだけでなく、PC 上にファイル形式で保存して後で利用することもできます。

**ステップ 8** 結果を保存するには、ウィンドウの右上の [保存 (Save)] をクリックします。  
[ファイルのダウンロード (File Download)] ダイアログが表示されます。

**ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。

[名前を付けて保存 (Save As) ] ダイアログが表示されます。ファイルを保存する PC 上の場所を参照します。

**ステップ 10** [保存 (Save) ] をクリックします。  
PC 上の XML ファイルに結果が保存されます。次の命名規則でファイルが保存されます。

dnaOutput\_<callingparty>\_<dialedigits>.xml

この <callingparty> および <dialedigits> には、それぞれ [ダイヤル番号 (Dialed Digits) ] フィールドおよび [発呼側 (Calling Party) ] フィールドに入力した発呼側およびダイヤル番号が指定されません。

**ステップ 11** [名前を付けて保存 (Save As) ] 手順を完了するには、[ダウンロードの完了 (Download Complete) ] ダイアログボックスの [閉じる (Close) ] をクリックします。

(注) 保存した XML ファイルをブラウザで表示する手順については、[出力ファイルの表示 \(79 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 12** [DNA 分析出力 (DNA Analysis Output) ] ウィンドウを閉じます。

#### 関連トピック

[関連項目 \(81 ページ\)](#)

## 複数の分析

Multiple Dial Plan は、ダイヤルプランの複数の分析とバルク テストを実行できる機能をサポートしています。

Dialed Number Analyzer (DNA) には [Multiple Analyzer] ウィンドウがあり、分析に必要なデータのリストを含む CSV ファイルを選択できます。DNA はその CSV ファイルを処理し、出力結果を一括で表示します。

インストール時に、DNATemplate.xlt が DNATemplate.zip としてサーバにインストールされます。このテンプレートを使用して、複数セットの発呼側番号と対応するダイヤル番号、コーリングサーチスペース、デバイス タイムゾーン、タイムゾーン、および日時の情報を含む CSV ファイルを作成できます。

これらのファイルをアップロードまたはダウンロードするには、DNA で [Multiple Analyzer] ウィンドウを使用します。

DNA テンプレートを使用した CSV 入力ファイルの作成、入力ファイルのアップロードまたはダウンロード、ファイルコンテンツの表示、および選択した入力ファイルの分析については、次のトピックを参照してください。

- [複数の分析用の CSV ファイルの作成 \(37 ページ\)](#)
- [複数の分析用のテキスト ファイルの作成 \(38 ページ\)](#)
- [入力ファイルのアップロード \(42 ページ\)](#)

- [CSV ファイルの表示](#), (43 ページ)
- [CSV ファイルの削除](#), (44 ページ)
- [CSV ファイルの分析](#), (44 ページ)

## 複数の分析用の CSV ファイルの作成

カンマ区切り値 (CSV) データファイルを作成するには、DNA のインストール時にサーバに保存される DNATemplate.xlt を使用します。

[入力ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Input File)] からローカルマシンに DNATemplate.zip ファイルをダウンロードできます。詳細については、[複数の分析用のテキストファイルの作成](#), (38 ページ) を参照してください。

zip ファイルを展開すると、DNATemplate.xlt ファイルが得られます。

DNA テンプレートを使用して CSV データ ファイルを作成するには、次の手順を使用します。

### 手順

- ステップ 1** DNA テンプレートを開くには、**DNATemplate.xlt** ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** DNA オプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [DNA] タブをクリックします。
- ステップ 4** [セクション 1: デフォルトフィールド (Section 1-Default Fields)] に、クエリーに適用するデフォルト値を入力します。
  - [発呼側番号 (Calling Party Number)] : 発信者を表す電話番号または SIP アドレスを入力します。ディレクトリ URI を使用して発信者を表す場合は、[ディレクトリ URI (directory URI)] チェックボックスをオンにし、対応するフィールドにディレクトリ URI を入力します。
  - [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] : 着呼側を表す電話番号または SIP アドレスを入力します。ディレクトリ URI を使用して着呼側を表す場合は、[ディレクトリ URI (directory URI)] チェックボックスをオンにし、対応するフィールドにディレクトリ URI を入力します。
  - [SIP 分析 (SIP Analysis)] : ダイヤル番号に対して SIP 分析を実行する場合は、[SIP 分析 (SIP Analysis)] チェックボックスをオンにし、[ドメインルート (Domain Route)] または [IP ルート (IP route)] オプション ボタンを選択します。[SIP 分析 (SIP Analysis)] オプションは、ダイヤル番号に数字を使用する場合にのみ有効です。ダイヤル番号がディレクトリ URI の場合は無効になります。[SIP 分析 (SIP Analysis)] をオンにする場合は、[ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールド (数値のみ) に入力する数字を SIP アドレス形式にする必要があります (たとえば、sip: 2000@ip\_address)。

たとえば、デフォルトの発呼側番号として bob@cisco.com を入力した場合、その DNA テンプレート内の情報を CSV ファイルにエクスポートすると、DNA クエリーに対して作成されるすべての

行には、対応する Multiple Analyzer Query Table の行に異なる値が入力されていなければ、発呼側番号として bob@cisco.com が入力されます。

(注) [デバイス タイムゾーン (Device Time Zone)] および [タイムゾーン (Time Zone)] の値を入力するには、対応するドロップダウンリストを使用するか、DNATemplate.xlt の [タイムゾーンインデックス (TimeZone Index)] タブのリストからインデックス番号を入力します。

**ステップ 5** 必要に応じて、[セクション 2 : Multiple Analyzer Query Table (Section 2–Multiple Analyzer Query Table)] で、デフォルト以外の情報を対応する列に入力します。テーブルの各行は、1 つの DNA クエリーを表します。行の値を空白のままにすると、CSV にエクスポートしたときに、セクション 1 のデフォルト値が入力されます。

(注) [発呼側番号 (Calling Party Number)] と [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] パラメータには、数字による電話番号とディレクトリ URI を同時に入力することはできません。

(注) コーリングサーチスペース (CSS) を発呼側およびダイヤル番号と関連付ける場合、Cisco Unified Communications Manager の管理の設定に従って正しい CSS 値を入力します。コーリングサーチスペースの詳細については、『System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。

(注) 複数の分析用に CSV ファイルに最大 500 エントリを追加できません。

**ステップ 6** [CSV 形式にエクスポート (Export to CSV Format)] をクリックします。表示されたダイアログボックスに、CSV ファイルを保存する場所を入力します。

## 関連トピック

[関連項目](#), (81 ページ)

# 複数の分析用のテキストファイルの作成

複数の分析のデータ入力に DNS テンプレートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

複数の分析用に CSV テキストファイルを作成するには、次の手順を使用します。

## 手順

**ステップ 1** テキストエディタ、または CSV ファイルをエクスポートまたは作成できるアプリケーションを起動します。

**ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加する分析ごとに、個別の行を使用して値を入力します。

a) True または False のブール値を使用して、すべてのチェックボックス値を指定します。

b) フィールドが空でも、必ずカンマ区切り文字を指定します。

c) 空の行がある CSV ファイルを挿入すると、エラーが発生します。

CSV データ ファイル形式の詳細については、[複数の分析用の CSV ファイル形式](#)、(39 ページ) を参照してください。

**ステップ 3** 完成したファイルを保存します。

#### 関連トピック

[関連項目](#)、(81 ページ)

## 複数の分析用の CSV ファイル形式

次の例では、CTI ポートおよび H.323 クライアント形式のテキストベースの CSV ファイルについて、フィールドの長さ、およびフィールドがオプションか必須かを示しています。

**Calling Party Number** (必須、数字、#、\*、A、B、C、D、24 文字まで)、**Dialed Digits** (必須、数字、#、\*、A、B、C、D、24 文字まで)、**Calling Search Space** (オプション、Cisco Unified Communications Manager の管理で設定されている有効な CSS 名)、**Device Time Zone** (オプション、1 ~ 53 の数値)、**Time Zone** (オプション、1 ~ 53 の数値)、**Date For Analysis** (オプション、YYYY-MMM-DD の形式)、**Time For Analysis** (オプション、HH:MM:SS の形式)

[表 1 : Device Time Zone のインデックス値](#)、(39 ページ) を参照して、Device Time Zone フィールドおよび Time Zone フィールドのタイムゾーンに対応するインデックス値 (1 ~ 53) を決定します。

**表 1 : Device Time Zone のインデックス値**

Device Time Zone	インデックス値
(GMT-12:00) エニウエトク、クワゼリン	1
(GMT-11:00) ミッドウェー諸島、サモア諸島	2
(GMT-10:00) ハワイ	3
(GMT-09:00) アラスカ	4
(GMT-08:00) 太平洋時間帯 (米国およびカナダ)、ティフアナ	5
(GMT-07:00) アリゾナ	6
(GMT-07:00) 山岳部時間帯 (米国およびカナダ)	7
(GMT-06:00) 中央時間帯 (米国およびカナダ)	8

Device Time Zone	インデックス値
(GMT-06:00) メキシコシティ、テグシガルパ	9
(GMT-06:00) サスカチュワン州	10
(GMT-05:00) ボガタ、リマ	11
(GMT-05:00) 東部時間帯 (米国およびカナダ)	12
(GMT-05:00) インディアナ (東部)	13
(GMT-04:00) 大西洋標準時 (カナダ)	14
(GMT-04:00) カラカス、ラパス	15
(GMT-03:30) ニューファンドランド州	16
(GMT-03:00) ブラジリア	17
(GMT-03:00) ブエノスアイレス、ジョージタウン	18
(GMT-02:00) 中部大西洋	19
(GMT-01:00) アゾレス諸島、カーボベルデ	20
(GMT) グリニッジ標準時、ダブリン、エジンバラ、ロンドン、リスボン	21
(GMT) モンロビア、カサブランカ	22
(GMT+01:00) アムステルダム、ベルリン、ストックホルム、ローマ、ベルン、ウィーン	23
(GMT+02:00) アテネ、ヘルシンキ、イスタンブール	24
(GMT+02:00) カイロ	25
(GMT+02:00) 東欧	26
(GMT+01:00) ブリュッセル、パリ、マドリッド、コペンハーゲン	27
(GMT+01:00) プラハ、ワルシャワ、ブダペスト	28



Device Time Zone	インデックス値
(GMT+02:00) ハラーレ、プレトリア	29
(GMT+02:00) イスラエル	30
(GMT+03:00) バグダッド、クウェート、ナイロビ、リヤド	31
(GMT+03:00) モスクワ、サンクトペテルスブルク、カザン、ボルゴグラード	32
(GMT+03:30) テヘラン	33
(GMT+04:00) バクー、エレバン、トビリシ	34
(GMT+04:30) カブール	35
(GMT+05:00) イスラマバード、カラチ、タシケント	36
(GMT+05:30) ボンベイ、カルカッタ、マドラス、ニューデリー、コロombo	37
(GMT+06:00) アルマトゥイ、ダッカ	38
(GMT+07:00) バンコク、ジャカルタ、ハノイ	39
(GMT+08:00) 北京、重慶、ウルムチ	40
(GMT+08:00) 香港、パース、シンガポール、台北	41
(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌、ソウル、ヤクーツク	54
(GMT+09:30) アデレード	43
(GMT+09:30) ダーウィン	44
(GMT+10:00) ブリズベン	45
(GMT+10:00) メルボルン、シドニー	46
(GMT+10:00) グアム、ポートモレスビー、ウラジオストク	47

Device Time Zone	インデックス値
(GMT+10:00) ホーバート	48
(GMT+11:00) マガダン、ソロモン諸島、 ニューカレドニア	49
(GMT+12:00) フィジー、カムチャツカ、マー シャル諸島	50
(GMT+12:00) ウェリントン、オークランド	51
(GMT+04:00) アブダビ、マスカット	52
(GMT+05:00) エカチェリンブルグ	53

#### サンプル 1

```
1000,20,,4,37,2005-Jun-9,3:00:59,1000,30,,4,37,2005-Jun-9,3:00:59,
1000,40,CSS1,4,37,2005-Jun-9,3:00:59,
```



(注) 入力データの各行の末尾には、必ずカンマを入力します。

#### 関連トピック

[関連項目](#), (81 ページ)

## 入力ファイルのアップロード

DNA から CSV データ ファイルにアクセスできるようにするには、前の手順で作成したデータ ファイルを Cisco Unified Communications Manager パブリッシュ データベース サーバにアップロードする必要があります。

CSV データ ファイルをアップロードするには、次の手順を使用します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [分析 (Analysis) ] > [Multiple Analyzer] を選択します。
- ステップ 2** ウィンドウの右上のドロップダウンリスト ボックスから [入力ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Input Files) ] を選択し、[移動 (Go) ] をクリックします。
- ステップ 3** [入力ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Input Files) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** 入力ファイルをアップロードするには、CSV ファイルを保存するディレクトリを入力するか、[参照 (Browse) ] ボタンを使用してディレクトリを選択します。
- ステップ 5** [ファイルのアップロード (Upload File) ] をクリックします。CSV ファイルがサーバにアップロードされます。
- (注) DNA テンプレートをダウンロードして CSV データ ファイルを作成するには、[テンプレート ファイルのダウンロード (Download Template Files) ] の [ダウンロード (Download) ] リンクをクリックし、ローカルマシンにファイルを保存します。
- 

## 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

# CSV ファイルの表示

分析を実行する前に、CSV ファイルのコンテンツを表示できます。  
CSV ファイル コンテンツを表示するには、次の手順を使用します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [分析 (Analysis) ] > [Multiple Analyzer] を選択します。
- 
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name) ] フィールドのドロップダウン リスト ボックスから CSV ファイルを選択します。このボックスには、[複数の分析用のテキスト ファイルの作成, \(38 ページ\)](#) の手順に従って Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードされたすべてのファイルが表示されます。
- ステップ 3** [ファイル コンテンツの表示 (View File Contents) ] をクリックします。
- ステップ 4** 選択した CSV ファイルの情報が別のウィンドウに表示されます。
- 

## 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## CSV ファイルの削除

アップロードされた CSV ファイルを削除するには、次の手順を使用します。

### 手順

- 
- ステップ 1 [分析 (Analysis) ] > [Multiple Analyzer] を選択します。
  - ステップ 2 ウィンドウの右上のドロップダウンリスト ボックスから [入力ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Input Files) ] を選択し、[移動 (Go) ] をクリックします。
  - ステップ 3 [入力ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Input Files) ] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 4 ウィンドウの右上の [アップロードされたファイルの削除 (Delete Uploaded Files) ] をクリックします。
  - ステップ 5 [アップロードされたファイルの表示/削除 (View/Delete Uploaded Files) ] ウィンドウに、サーバにアップロードされているすべての CSV ファイルのリストが表示されます。  
(注) ウィンドウの上部のテキストボックスに基準を入力し、[検索 (Find) ] をクリックして、特定のファイルを検索できます。
  - ステップ 6 ファイル名の横にあるチェックボックスをオンにして、リストから削除するファイル (複数可) を選択します。
  - ステップ 7 [Delete Selected] をクリックします。
  - ステップ 8 選択したファイルを削除するには、確認ダイアログボックスの [OK] をクリックします。ファイルの削除をキャンセルするには、[キャンセル (Cancel) ] をクリックします。
- 

### 関連トピック

[関連項目](#)、(81 ページ)

## CSV ファイルの分析

複数の入力セットに複数の分析を実行すると、統合された結果が表示されます。結果は、発呼者番号、対応するダイヤル番号、CSS、および最終的な分析結果 (ルート/ブロック) で構成され、入力セットごとに 1 行の形式で表示されます。

アップロードされた CSV データ ファイルを分析するには、次の手順を使用します。

### 手順

- 
- ステップ 1 [分析 (Analysis) ] > [Multiple Analyzer] を選択します。

- ステップ 2 [ファイル名 (File Name) ] ドロップダウン リスト ボックスから、分析する CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3 [分析の実行 (Do Analysis) ] をクリックします。分析結果が別のウィンドウに表示されます。  
注意 複数の分析には大量の CPU リソースが消費され、データベースのパフォーマンスに大きな影響を与えます。複数の分析は、ネットワークのトラフィック量が最も少ない時間に行ってください。  
(注) 複数の分析は、1 度に 1 つしか実行できません。
- ステップ 4 結果の各行について詳細な分析を表示するには、[詳細 (Details) ] をクリックします。  
(注) file list activelog /tomcat/logs/dna/Results で表示される場所に、ファイルが保存されません。
- ステップ 5 CSV 形式で結果ファイルを保存するには、[保存 (Save) ] をクリックします。

#### 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## 分析の出力

実行した分析の結果には、ダイヤル番号のコールフローに関する情報が含まれます。ここでは、Dialed Number Analyzer を使用して取得された分析結果の例を示します。各例には、さまざまなタイプの入力および Cisco Unified Communications Manager 設定データを使用して取得された結果が示されています。また、分析の出力に含まれる各値についても説明します。

結果は、Results Summary、Call Flow、および Alternate Matches の 3 つのセクションで記述されます。分析の出力に含まれる情報については、次のトピックを参照してください。

- [分析例, \(45 ページ\)](#)
- [結果概要, \(68 ページ\)](#)
- [コールフローの詳細, \(70 ページ\)](#)
- [代替の一致, \(77 ページ\)](#)

## 分析例

ここでは、Dialed Number Analyzer を使用してさまざまな入力で取得できる結果を理解できる例をいくつか紹介します。Results Summary、Call Flow、および Alternate Matches のセクションには、分析結果で表示可能な値がすべて記述されます。結果の例には、Dialed Number Analyzer に提供される入力のタイプに由来する値だけが含まれます。

## 例 1

この例では、Cisco Unified Communications Manager で次のセットアップが行われていることを前提にしています。

電話：パーティション「DallasPartition」内の 1360064

回線コーリングサーチスペース：ALL（ALL CSS には DallasPartition と SJPartition が存在します）

ルートフィルタ：RF-SJ（LONG-DISTANCE-DIRECT-DIAL EXISTS AND AREA-CODE == 408）。このルートパターンでは、RouteList 「RL1」を選択します。RL1 では RG1 および RG2 を使用します。

RG1 設定には、10.77.31.206 のクラスタ間トランク、およびルートグループレベルの発呼側および着呼側のトランスフォーメーションが含まれます。RG2 設定には、10.77.31.231 のクラスタ間トランク、および QSIG トンネル化プロトコルが含まれます。

ルートパターン：パーティション「SJPartition」内の 9.@。次のように設定されます。

- [オフネットパターン（外部ダイヤルトーン）（Offnet Pattern (Outside Dial Tone)）] がオンです。
- [強制承認コードが必須（Require Forced Authorization Code）] がオンです。
- [クライアント識別コードが必須（Require Client Matter Code）] がオンです。
- [承認レベル（Authorization Level）] が 155 です。

ルートパターンを RL1 ルートリストおよびルートフィルタ RF-SJ に関連付けます。

クラスタ間トランク 10.77.31.206 を次のように設定します。

- [トンネル化プロトコル（Tunneled Protocol）]：[QSIG]
- [コールの分類（Call Classification）]：[システムデフォルトの使用（Use System Default）]
- [インバウンド Fast Start（Inbound Fast Start）]：[無効（Disabled）]
- [アウトバウンド Fast Start（Outbound Fast Start）]：[有効（Enabled）]
- [アウトバウンド FastStart 用コーデック（Codec For Outbound FastStart）]：[G711 mu-law 64k]

クラスタ間トランク 10.77.31.231 を次のように設定します。

- [トンネル化プロトコル（Tunneled Protocol）]：[QSIG]
- [コールの分類（Call Classification）]：[システムデフォルトの使用（Use System Default）]
- [インバウンド Fast Start（Inbound Fast Start）]：[無効（Disabled）]
- [アウトバウンド Fast Start（Outbound Fast Start）]：[無効（Disabled）]

この例を実行するには、次の手順を使用します。

## 手順

- ステップ 1** Dialed Number Analyzer にアクセスし、[分析 (Analysis)] > [アナライザ (Analyzer)] を選択します。
- ステップ 2** [アナライザ (Analyzer)] ウィンドウの [発呼側 (Calling Party)] フィールドに 1360064 と入力します。
- ステップ 3** [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに 914089027872 と入力します。
- ステップ 4** [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスから [ALL] を選択します。
- ステップ 5** [デバイス タイム ゾーン (Device Time Zone)] フィールド、Cisco Unified Communications Manager システムの [タイム ゾーン (Time Zone)]、[日付 (Date)]、[時間 (Time)] の各フィールドは、デフォルト値のままにします。
- ステップ 6** [分析の実行 (Do Analysis)] をクリックします。  
[Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results)] ウィンドウという新しいウィンドウに結果が表示されます。[結果の概要 (Results Summary)] セクションを展開すると、概要情報が表示されます。
- ステップ 7** ウィンドウのすべてのノードを展開し、すべての値を表示するには、[すべて展開 (Expand All)] をクリックします。また、ウィンドウのすべてのノードを閉じるには、[すべて縮小 (Collapse All)] をクリックします。
- (注) [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results)] ウィンドウが最初に表示されたとき、[すべて展開 (Expand All)] ボタンと [すべて縮小 (Collapse All)] ボタンの両方が有効になっています。
- 結果については、次を参照してください。

## 例 1 の分析結果

```
Results Summary Calling Party Information
Calling Party = 1360064
Partition =
Device CSS =
Line CSS = ALL
AAR Group Name =
AARCSS =
Dialed Digits = 914089027872
Match Result = RouteThisPattern
Matched Pattern Information
Pattern = 9.@
Partition = SJPartition
Time Schedule =
Called Party Number = 914089027872
Time Zone = (GMT+05:30) Bombay, Calcutta, Madras, New Delhi, Colombo
End Device = RL1
CallClassification = OffNet
InterDigit Timeout = NO
```

```
Provide Outside Dial Tone)
PlayedAfter = 9
Call Flow
Route Pattern :Pattern= 9.@
Positional Match List = 9:1:408:902:7872
DialPlan = North American Numbering Plan
Route Filter
  Filter Name = RF-SJ
  Filter Clause = (LONG-DISTANCE-DIRECT-DIAL EXISTS AND AREA-CODE ==
408)
Require Forced Authorization Code = Yes
Authorization Level = 155
Require Client Matter Code = Yes
Network Location = OffNet
PreTransform Calling Party Number = 1360064
PreTransform Called Party Number = 914089027872
Calling Party Transformations
  External Phone Number Mask = NO
  Calling Party Mask =
  Prefix =
  CallingLineId Presentation = Default
  CallingName Presentation = Default
  Calling Party Number = 1360064
ConnectedParty Transformations
  ConnectedLineId Presentation = Default
  ConnectedName Presentation = Default
Called Party Transformations
  Called Party Mask =
  Discard Digits Instruction =
  Prefix =
  Called Number = 914089027872
Route List :Route List Name= RL1
RouteGroup :RouteGroup Name= RG1
  PreTransform Calling Party Number = 1360064
  PreTransform Called Party Number = 914089027872
  Calling Party Transformations
    External Phone Number Mask = Default
    Calling Party Mask =
    Prefix =
    Calling Party Number = 1360064
  Called Party Transformations
    Called Party Mask =
    Discard Digits Instructions =
    Prefix =
    Called Number = 914089027872
Device :Type= InterClusterTrunk-NonGatekeeperControlled
  End Device Name = 10.77.31.206
  PortNumber = 0
  Device Status = UnKnown
  AAR Group Name =
  AAR Calling Search Space =
  AAR Prefix Digits =
  Inbound Fast Start = Disabled
  Outbound Fast Start = Enabled
  Codec For Outbound FastStart = G711 u-law 64K
  Call Classification = Use System Default
  Tunneled Protocol = QSIG
  Calling Party Transformations
```



```
PreTransform Calling Party Number = 1360064
Calling Party Selection = Originator
Calling Party Presentation = Default
CallerID DN =
Calling Party Number = 1360064
RouteGroup :RouteGroup Name= RG2
PreTransform Calling Party Number = 1360064
PreTransform Called Party Number = 914089027872
Calling Party Transformations
  External Phone Number Mask = Default
  Calling Party Mask =
  Prefix =
  Calling Party Number = 1360064
Called Party Transformations
  Called Party Mask =
  Discard Digits Instructions =
  Prefix =
  Called Number = 914089027872
Device :Type= InterClusterTrunk-NonGatekeeperControlled
End Device Name = 10.77.31.231
PortNumber = 0
Device Status = UnKnown
Automated Alternate Routing (AAR)
  AAR Group Name =
  AAR Calling Search Space =
  AAR VoiceMail Status = Disabled
  AAR Destination Mask =
  AAR Prefix Digits =
  Inbound Fast Start = Disabled
  Outbound Fast Start = Disabled
  Call Classification = Use System Default
  Tunneled Protocol = QSIG
Calling Party Transformations
  PreTransform Calling Party Number = 1360064
  Calling Party Selection = Originator
  Calling Party Presentation = Default
  CallerID DN =
  Calling Party Number = 1360064
Alternate Matches
Note: Information Not Available
```

### 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## 例 2

この例では、Cisco Unified Communications Manager で次のセットアップが行われていることを前提にしています。

ルートパターン：パーティション「SJPartition」内の9.@

ルートフィルタ：RF-SJ (LONG-DISTANCE-DIRECT-DIAL EXISTS AND AREA-CODE == 408)。  
このルートパターンでは、RouteList「RL1」を選択します。RL1 では RG1 が使用されます。

RG1 設定には、10.77.31.206 のクラスタ間トランク、およびルートグループレベルの発呼側および着呼側のトランスフォーメーションが含まれます。CSS-AALL で 10.77.31.206 ゲートウェイを設定します (ALL CSS には DallasPartition と SJPartition が存在します)。

RG2 設定には、10.77.31.231 のクラスタ間トランク、および QSIG トンネル化プロトコルが含まれます。

ルートパターン：パーティション「SJPartition」内の 9.@。次のように設定されます。

- [オフネットパターン (外部ダイヤル トーン) (Offnet Pattern (Outside Dial Tone))] がオンです。
- [強制承認コードが必須 (Require Forced Authorization Code)] がオンです。
- [クライアント識別コードが必須 (Require Client Matter Code)] がオンです。
- [承認レベル (Authorization Level)] = 155

ルートパターンを RL1 ルートリストおよびルートフィルタ RF-SJ に関連付けます。

クラスタ間トランク 10.77.31.206 を次のように設定します。

- [トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] : [QSIG]
- [コールの分類 (Call Classification)] : [システムデフォルトの使用 (Use System Default)]
- [インバウンド Fast Start (InBound Fast Start)] : [無効 (Disabled)]
- [アウトバウンド Fast Start (OutBound Fast Start)] : [有効 (Enabled)]
- [アウトバウンド Fast Start 用コーデック (Codec For Outbound Fast Start)] : [G711 mu-law 64k]

クラスタ間トランク 10.77.31.231 を次のように設定します。

- [トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] : [QSIG]
- [コールの分類 (Call Classification)] : [システムデフォルトの使用 (Use System Default)]
- [インバウンド Fast Start (InBound Fast Start)] : [無効 (Disabled)]
- [アウトバウンド Fast Start (OutBound Fast Start)] : [無効 (Disabled)]

DN 254564 で電話を設定します。電話の [プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))] チェックボックスをオンにします。[着信側トランスフォーメーション (Called Party Transformations)] が [DN 254564] に設定されたパーティション「DallasPartition」には、トランスレーションパターン 972813XXXX があります。

このトランスレーションパターンについては、[外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside dial tone)] をオンにしません。

この例を実行するには、次の手順を使用します。

## 手順

- ステップ 1** Dialed Number Analyzer にアクセスし、[分析 (Analysis)] > [トランク (Trunks)] を選択します。
- ステップ 2** [トランクの検索, \(32 ページ\)](#) の手順を使用して、設定されているトランクのリストを検索します。
- ステップ 3** [トランクの検索/一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウに表示されたレコードのリストから、ゲートウェイ 10.77.31.206 を選択します。[トランク情報 (Trunk Information)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [トランク情報 (Trunk Information)] ウィンドウの[発呼側 (Calling Party)] フィールドに 9728130064 と入力します。
- ステップ 5** [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに 9728135054 と入力します。
- ステップ 6** [タイムゾーン (Time Zone)]、[日付 (Date)]、および[時間 (Time)] ドロップダウンリストボックスはデフォルト値のままにします。
- ステップ 7** [分析の実行 (Do Analysis)] をクリックします。  
[Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results)] ウィンドウという新しいウィンドウに結果が表示されます。[結果の概要 (Results Summary)] セクションを展開すると、概要情報が表示されます。
- ステップ 8** ウィンドウのすべてのノードを展開し、すべての値を表示するには、[すべて展開 (Expand All)] をクリックします。また、ウィンドウのすべてのノードを閉じるには、[すべて縮小 (Collapse All)] をクリックします。
- (注) [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results)] ウィンドウが最初に表示されたとき、[すべて展開 (Expand All)] ボタンと [すべて縮小 (Collapse All)] ボタンの両方が有効になっています。  
結果については、次を参照してください。

## 例 2 の分析結果

```
Results Summary Calling Party Information
Calling Party = 9728130064
Partition =
Device CSS = ALL
Line CSS =
AAR Group Name =
AARCSS =
Dialed Digits = 9728135054
Match Result = RouteThisPattern
Matched Pattern Information
Pattern = 254564
Partition =
Time Schedule =
Called Party Number = 254564
Time Zone =
InterDigit Timeout = NO
Provide Outside Dial Tone = NO
```

```
Call Flow
TranslationPattern :Pattern= 972813XXXX
Positional Match List = 254564
DialPlan = North American Numbering Plan
Route Filter
  Filter Name =
  Filter Clause =
PreTransform Calling Party Number = 9728130064
PreTransform Called Party Number = 9728135054
Calling Party Transformations
  External Phone Number Mask = NO
  Calling Party Mask =
  Prefix =
  CallingLineId Presentation = Default
  CallingName Presentation = Default
  Calling Party Number = 9728130064
ConnectedParty Transformations
  ConnectedLineId Presentation = Default
  ConnectedName Presentation = Default
Called Party Transformations
  Called Party Mask = 254564
  Discard Digits Instruction =
  Prefix =
  Called Number = 254564
Directory Number :DN= 254564
Partition =
Call Classification = OnNet
Forwarding Information
  ForwardAll : DN = VoiceMail = No CSS =
  ForwardBusy
    Internal : DN = VoiceMail = No CSS =
    External : DN = VoiceMail = No CSS =
  ForwardNoAnswer
    Internal : DN = VoiceMail = No CSS =
    External : DN = VoiceMail = No CSS =
  ForwardNoCoverage
    Internal : DN = VoiceMail = No CSS =
    External : DN = VoiceMail = No CSS =
  CFDF : DN = VoiceMail = No CSS =
  Pickup Group Number =
Device :Type= Cisco 7960
Device Status = UnKnown
Device Name = SEP487698944444
Ignore Presentation Indicators = Disabled
Logged Into Hunt Groups = Enabled
Alerting Name =
Dual Mode = Disabled
Do Not Disturb(DND)
DND Status = Disabled
DND Option = Ringer Off
DND Incoming Call Alert =
DND Timeout (minutes) = 0
Automated Alternate Routing (AAR)
AAR Group Name =
AAR Calling Search Space =
AAR VoiceMail Status = Disabled
AAR Destination Mask =
AAR Prefix Digits =
```

Alternate Matches  
Note: Information Not Available

### 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## 例 3

次に、ダイヤルプランの設定にハントリストが含まれる場合、分析結果にハントパイロット情報が表示される例を示します。この例では、Cisco Unified Communications Manager で次のセットアップが行われていることを前提にしています。

ハントパイロット：9043。

90431 から 90440 までの 10 個のボイスメールポートが設定されます。

回線グループ VMLG には 10 個のポートが含まれます。

ハントリスト VMHL には回線グループ VMLG が含まれます。

[無応答時ハント転送 (Forward Hunt No Answer) ] を次のように設定します。

[個人の初期設定を使用 (Use Personal Preference) ] をオンにします。

[接続先 (Destination) ] = 30129。

[CSS] = [なし (None) ]。

[話中ハント転送 (Forward Hunt Busy) ] を次のように設定します。

[個人の初期設定を使用 (Use Personal Preference) ] をオンにします

[接続先 (Destination) ] = 30139

[CSS] = [なし (None) ]

[最大ハントタイマー (Maximum Hunt Timer) ] = 5

この例を実行するには、次の手順を使用します。

### 手順

- ステップ 1** Dialed Number Analyzer にアクセスし、[分析 (Analysis) ] > [アナライザ (Analyzer) ] を選択します。  
[アナライザ (Analyzer) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [発呼側 (Calling Party) ] フィールドに、発呼側番号を入力します (デフォルトで 1000 が表示されます)。
- ステップ 3** [ダイヤル番号 (Dialed Digits) ] フィールドに 9043 と入力します。
- ステップ 4** [デバイス タイムゾーン (Device Time Zone) ] フィールドをデフォルト値のままにします。  
デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのオペレーティング システムの日時情報を示すローカルの日時が表示されます。Cisco Unified

Communications Manager のシステム時刻とは異なる日付および時間の設定を選択することもできます。

- ステップ 5** [タイムゾーン (Time Zone) ]、[日付 (Date) ]、および [時間 (Time) ] の各フィールドをデフォルト設定のままにします。
- ステップ 6** [分析の実行 (Do Analysis) ] をクリックします。
- ステップ 7** [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] ウィンドウという新しいウィンドウに結果が表示されます。[結果の概要 (Results Summary) ] セクションを展開すると、概要情報が表示されます。
- ステップ 8** ウィンドウのすべてのノードを展開してすべての値を表示するには、[すべて展開 (Expand All) ] をクリックします。また、ウィンドウのすべてのノードを閉じるには、[すべて縮小 (Collapse All) ] をクリックします。

(注) [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] ウィンドウが最初に表示されたとき、[すべて展開 (Expand All) ] ボタンと [すべて縮小 (Collapse All) ] ボタンの両方が有効になっています。

結果については、次を参照してください。結果セクションには、ハントリスト情報が含まれる [コールフロー (Call Flow) ] セクションのみが詳細表示されます。

### 例 3 の分析結果

```
Results Summary Calling Party Information
Calling Party = 1000
Partition =
Device CSS =
Line CSS =
AAR Group Name =
AARCSS =
Dialed Digits = 9043
Match Result = RouteThisPattern
Matched Pattern Information
Pattern = 9043
Partition =
Time Schedule =
Called Party Number = 9043
Time Zone =
End Device = VMHL
Call Classification = OffNet
InterDigit Timeout = YES
Provide Outside Dial Tone = NO
Call Flow
Hunt Pilot :Pattern= 9043
Positional Match List = 9043
DialPlan = North American Numbering Plan
Route Filter
  Filter Name =
  Filter Clause =
Hunt Forward Settings
  Forward Hunt No Answer
  Use Personal Preferences = Yes
```

```
Destination = 30129
Calling Search Space =
Forward Hunt Busy
Use Personal Preferences = Yes
Destination = 30139
Calling Search Space =
Maximun Hunt Timer = 5
Network Location = OffNet
PreTransform Calling Party Number = 1000
PreTransform Called Party Number = 9043
Calling Party Transformations
  External Phone Number Mask = NO
  Calling Party Mask =
  Prefix =
  CallingLineId Presentation = Default
  CallingName Presentation = Default
  Calling Party Number = 1000
ConnectedParty Transformations
  ConnectedLineId Presentation = Default
  ConnectedName Presentation = Default
Called Party Transformations
  Called Party Mask =
  Discard Digits Instruction =
  Prefix =
  Called Number = 9043
Hunt List :HuntListName= VMHL
Line Group :LineGroupName= VMLG
Directory Number :DN= 90431
  Partition =
  Call Classification = OnNet
  Device :Type= Cisco Voice Mail Port
  Device Status = UnKnown
  Device Name = CiscoUM1-VI1
  Ignore Presentation Indicators = Disabled
  Alerting Name =
  Automated Alternate Routing (AAR)
  AAR Group Name =
  AAR Calling Search Space =
  AAR VoiceMail Status = Disabled
  AAR Destination Mask =
  AAR Prefix Digits =
+ Directory Number :DN= 90432
+ Directory Number :DN= 90433
+ Directory Number :DN= 90434
+ Directory Number :DN= 90435
+ Directory Number :DN= 90436
+ Directory Number :DN= 90437
+ Directory Number :DN= 90438
+ Directory Number :DN= 90439
+ Directory Number :DN= 90440
Alternate Matches
Note: Information Not Available
```



(注) 上の例の最後のセクションでは、最初のポートについて詳細なディレクトリ番号情報が表示されています。設定されている残りのポートについても同様の情報が表示されます。

## 関連トピック

[関連項目](#), ([81 ページ](#))

## 例 4

次に、電話のタイムゾーン設定が Cisco Unified Communications Manager の管理で特定のタイムゾーンに設定された後、分析結果に表示される時刻設定情報の例を示します。この例では、[分析 (Analysis)] > [アナライザ (Analyzer)] ウィンドウで指定したタイムゾーン、日付、および時間の設定を分析に使用します。この例では、Cisco Unified Communications Manager で次のセットアップが行われていることを前提にしています。

[時間帯 (Time Period)] : DNATimePeriod1

次のように DNATimePeriod1 を設定します。

- [開始時刻 (Start Time)] = 9.00
- [終了時刻 (End Time)] = 12.00
- [繰り返し設定 (Repeat Every)] = [毎年 (Year On)] : 6 月 15 日

[スケジュール (Time Schedule)] : DNATimeSchedule1

DNATimeSchedule1 を DNATimePeriod1 に設定します。

[パーティション (Partition)] : DNAPartition1

DNAPartition1 を DNATimeSchedule1 に設定します。

DNAPartition1 の設定が次のようになっていることを確認します。

- [タイムゾーン (Time Zone)] = [特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)]、(GMT+5.30)  
ボンベイ、カルカッタ、マドラス、ニューデリー、コロンボ

DNAPartition1 で DNACSS1 を設定します。

電話 : SEP000000036201 に DN 36201 を設定します。

SEP000000036201 電話のパーティション = DNAPartition1

この例を実行するには、次の手順を使用します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Dialed Number Analyzer にアクセスし、[分析 (Analysis)] > [アナライザ (Analyzer)] を選択します。  
[アナライザ (Analyzer)] ウィンドウが表示されます。



- ステップ 2** [発呼側 (Calling Party) ] フィールドに、発呼側番号を入力します (デフォルトで 1000 が表示されます)。
- ステップ 3** [ダイヤル番号 (Dialed Digits) ] フィールドに 36201 と入力します。
- ステップ 4** [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space) ] ドロップダウン リストから [DNACSS1] を選択します。
- ステップ 5** [タイムゾーン (Time Zone) ] ドロップダウンリストから [ (GMT+5.30) ボンベイ、カルカッタ、マドラス、ニューデリー、コロンボ ((GMT+5.30) Bombay, Calcutta, Madras, New Delhi, Colombo) ] というタイムゾーンを選択します。
- ステップ 6** Cisco Unified Communications Manager システムの日付設定として、[日付 (Date) ] ドロップダウン リスト ボックスから [2004]、[6 月 (Jun) ]、および [15] を選択します。
- ステップ 7** Cisco Unified Communications Manager システムの時間設定として、[時間 (Time) ] ドロップダウン リスト ボックスから [11:30:0:0] を選択します。
- ステップ 8** [分析の実行 (Do Analysis) ] をクリックします。
- ステップ 9** [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] ウィンドウという新しいウィンドウに結果が表示されます。[結果の概要 (Results Summary) ] セクションを展開すると、概要情報が表示されます。
- ステップ 10** ウィンドウのすべてのノードを展開し、すべての値を表示するには、[すべて展開 (Expand All) ] をクリックします。また、ウィンドウのすべてのノードを閉じるには、[すべて縮小 (Collapse All) ] をクリックします。
- (注) [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] ウィンドウが最初に表示されたとき、[すべて展開 (Expand All) ] ボタンと [すべて縮小 (Collapse All) ] ボタンの両方が有効になっています。
- 結果については、次を参照してください。

#### 例 4 の分析結果

```
Results Summary Calling Party Information
Calling Party = 1000
Partition =
Device CSS =
Line CSS = DNACSS1
AAR Group Name =
AARCSS =
Dialed Digits = 36201
Match Result = RouteThisPattern
Matched Pattern Information
Pattern = 36201
Partition = DNAPartition1
Time Schedule = DNATimeSchedule1
Called Party Number = 36201
Time Zone = (GMT+05:30) Bombay, Calcutta, Madras, New Delhi, Colombo
InterDigit Timeout = NO
Provide Outside Dial Tone = NO
Call Flow
Directory Number :DN= 36201
```

```

Partition = DNAPartition1
Call Classification = OnNet
Forwarding Information
  ForwardAll : DN = VoiceMail = No CSS =
  ForwardBusy
    Internal : DN = VoiceMail = No CSS =
    External : DN = VoiceMail = No CSS =
  ForwardNoAnswer
    Internal : DN = VoiceMail = No CSS =
    External : DN = VoiceMail = No CSS =
  ForwardNoCoverage
    Internal : DN = VoiceMail = No CSS =
    External : DN = VoiceMail = No CSS =
  CFDF : DN = VoiceMail = No CSS =
  Pickup Group Number =
Device :Type= Cisco 7960
Device Status = UnKnown
Device Name = SEP000000036201
Ignore Presentation Indicators = Disabled
Alerting Name =
Do Not Disturb(DND)
  DND Status = Disabled
  DND Option = Ringer Off
  DND Incoming Call Alert =
  DND Timeout (minutes) = 0
Automated Alternate Routing (AAR)
  AAR Group Name =
  AAR Calling Search Space =
  AAR VoiceMail Status = Disabled
  AAR Destination Mask =
  AAR Prefix Digits =
Alternate Matches
Note: Information Not Available

```

## 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## 例 5

次に、[発信側デバイス (Originating Device)] に指定されているタイムゾーンで同じ時間帯に 2 つの電話間で通話がある場合に、時刻設定情報を表示する例を示します。この例では、Cisco Unified Communications Manager で次のセットアップが行われていることを前提としています。

次のように時間帯 DNATimePeriod1 を設定します。

[開始時刻 (Start Time)] = 9.00

[終了時刻 (End Time)] = 12.00

[毎年繰り返す (Repeat Every Year)] = 6 月 15 日

次のようにスケジュール DNATimeSchedule1 を設定します。

時間帯 = DNATimePeriod1

DNAPartition1 というパーティションを挿入します。

次のように DNAPartition1 を設定します。

- [スケジュール (Time Schedule) ] = DNATimeSchedule1
- [タイムゾーン (Time Zone) ] = [発信側デバイス (Originating Device) ]

DNACSS-1 というコーリングサーチスペースを挿入します。この CSS に DNAPartition1 パーティションを追加します。

電話 SEP000000036201 を挿入し、36201 という DN を割り当てます。

電話のパーティションとして DNAPartition1 を選択します。

この例を実行するには、次の手順を使用します。

## 手順

- ステップ 1** Dialed Number Analyzer にアクセスし、[分析 (Analysis) ] > [アナライザ (Analyzer) ] を選択します。  
[アナライザ (Analyzer) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [発呼側 (Calling Party) ] フィールドに、発呼側番号を入力します (デフォルトで 1000 が表示されます)。
- ステップ 3** [ダイヤル番号 (Dialed Digits) ] フィールドに 36201 と入力します。
- ステップ 4** [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] ドロップダウンリストから [DNACSS1] を選択します。
- ステップ 5** [デバイスタイムゾーン (Device Time Zone) ] ドロップダウンリストボックスから [グリニッジ標準時 (GMT) : ダブリン、エジンバラ、ロンドン、リスボン (Greenwich Mean Time (GMT); Dublin, Edinburgh, London, Lisbon) ] を選択します。
- ステップ 6** [タイムゾーン (Time Zone) ] ドロップダウンリストから [ (GMT+05:30) : ボンベイ、カルカタ、マドラス、ニューデリー、コロンボ ((GMT+05:30): Bombay, Calcutta, Madras, New Delhi, Colombo) ] を選択します。
- ステップ 7** [日付 (Date) ] ドロップダウンリストボックスから [2004]、[6月 (Jun) ]、および [15] を選択します。
- ステップ 8** [時間 (Time) ] ドロップダウンリストボックスから [15:30:00] を選択します。
- ステップ 9** [分析の実行 (Do Analysis) ] をクリックします。
- ステップ 10** [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] ウィンドウという新しいウィンドウに結果が表示されます。[結果の概要 (Results Summary) ] セクションを展開すると、概要情報が表示されます。
- ステップ 11** ウィンドウのすべてのノードを展開してすべての値を表示するには、[すべて展開 (Expand All) ] をクリックします。また、ウィンドウのすべてのノードを閉じるには、[すべて縮小 (Collapse All) ] をクリックします。  
(注) [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] ウィンドウが最初に表示されたとき、[すべて展開 (Expand All) ] ボタンと [すべて縮小 (Collapse All) ] ボタンの両方が有効になっています。  
結果については、次を参照してください。

## 例 5 の分析結果

```

Results Summary Calling Party Information
Calling Party = 1000
Partition =
Device CSS =
Line CSS = DNACSS1
AAR Group Name =
AARCSS =
Dialed Digits = 36201
Match Result = RouteThisPattern
Matched Pattern Information
Pattern = 36201
Partition = DNAPartition1
Time Schedule = DNATimeSchedule1
Called Party Number = 36201
Time Zone = (GMT) Greenwich Mean Time; Dublin, Edinburgh, London, Lisbon

InterDigit Timeout = NO
Provide Outside Dial Tone = NO
Call Flow
Directory Number :DN= 36201
Partition = DNAPartition1
Call Classification = OnNet
Forwarding Information
  ForwardAll : DN = VoiceMail = No CSS =
  ForwardBusy
    Internal : DN = VoiceMail = No CSS =
    External : DN = VoiceMail = No CSS =
  ForwardNoAnswer
    Internal : DN = VoiceMail = No CSS =
    External : DN = VoiceMail = No CSS =
  ForwardNoCoverage
    Internal : DN = VoiceMail = No CSS =
    External : DN = VoiceMail = No CSS =
  CFDF : DN = VoiceMail = No CSS =
  Pickup Group Number =
Device :Type= Cisco 7960
  Device Status = UnKnown
  Device Name = SEP000000036201
  Ignore Presentation Indicators = Disabled
  Alerting Name =
  Do Not Disturb(DND)
    DND Status = Disabled
    DND Option = Ringer Off
    DND Incoming Call Alert =
    DND Timeout (minutes) = 0
  Automated Alternate Routing (AAR)
    AAR Group Name =
    AAR Calling Search Space =
    AAR VoiceMail Status = Disabled
    AAR Destination Mask =
    AAR Prefix Digits =
Alternate Matches
Note: Information Not Available

```

## 関連トピック

[関連項目](#), (81 ページ)

## 例 6

次に、ドメインルーティングを使用して SIP ルート パターンを設定するときに、SIP 分析設定を分析結果に表示する例を示します。この例では、Cisco Unified Communications Manager で次のセットアップが行われていることを前提にしています。

[パターン使用法 (Pattern Usage)] = [ドメインルーティング (Domain Routing)]

[パターン (Pattern)] = cisco.com

[ルートパーティション (Route Partition)] = [なし (None)]

[SIP トランク (SIP Trunk)] = SIPTrunk

[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] = [デフォルト (Default)]

[発呼者回線名の表示 (Calling Line Name Presentation)] = [デフォルト (Default)]

[接続側回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] = [デフォルト (Default)]

[接続側回線名の表示 (Connected Line Name Presentation)] = [デフォルト (Default)]

この例を実行するには、次の手順を使用します。

## 手順

- ステップ 1** Dialed Number Analyzer にアクセスし、[分析 (Analysis)] > [アナライザ (Analyzer)] を選択します。  
[アナライザ (Analyzer)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [発呼側 (Calling Party)] フィールドに、発呼側番号を入力します (デフォルトで 1000 が表示されます)。
- ステップ 3** [SIP 分析 (SIP Analysis)] に対応するチェックボックスをオンにし、[ドメインルート (Domain Route)] を選択します。
- ステップ 4** [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに sip:1001@cisco.com と入力します。この cisco.com は、コールを発信する SIP ルートパターンにマッピングされるゲートウェイを示します。1001 は、SIP コールが SIP トランクから外れる宛先までの外部ネットワーク内の宛先アドレスを示します。  
(注) SIP 分析に対応するチェックボックスをオンにしてから、[ダイヤル番号 (Dialed Digits)] 情報を入力してください。このチェックボックスがオフの場合、[ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに使用できるのは、数字、A ~ D、a ~ d、#、および \* だけになります。

- ステップ 5** [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] ドロップダウンリストから [なし (None) ] を選択します。
- ステップ 6** [デバイス タイムゾーン (Device Time Zone) ] ドロップダウンリストボックスから [グリニッジ標準時 (GMT) : ダブリン、エジンバラ、ロンドン、リスボン (Greenwich Mean Time (GMT); Dublin, Edinburgh, London, Lisbon) ] を選択します。
- ステップ 7** [タイムゾーン (Time Zone) ] ドロップダウンリストから [ (GMT+05:30) : ボンベイ、カルカッタ、マドラス、ニューデリー、コロンボ ((GMT+05:30): Bombay, Calcutta, Madras, New Delhi, Colombo) ] を選択します。
- ステップ 8** [日付 (Date) ] ドロップダウンリストボックスから [2005]、[11 月 (Nov) ]、および [24] を選択します。
- ステップ 9** [時間 (Time) ] ドロップダウンリストボックスから [15:30:0:0] を選択します。
- ステップ 10** [分析の実行 (Do Analysis) ] をクリックします。
- ステップ 11** [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] ウィンドウという新しいウィンドウに結果が表示されます。[結果の概要 (Results Summary) ] セクションを展開すると、概要情報が表示されます。
- ステップ 12** ウィンドウのすべてのノードを展開してすべての値を表示するには、[すべて展開 (Expand All) ] をクリックします。また、ウィンドウのすべてのノードを閉じるには、[すべて縮小 (Collapse All) ] をクリックします。
- (注) [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] ウィンドウが最初に表示されたとき、[すべて展開 (Expand All) ] ボタンと [すべて縮小 (Collapse All) ] ボタンの両方が有効になっています。
- 結果については、次を参照してください。
- (注) 分析結果は、Cisco Unified Communications Manager データベースで使用可能な設定にのみ基づいています。ゲートウェイのアウトバウンドコールについては、ゲートウェイの設定によってコールの詳細が異なることがあります。

## 例 6 の分析結果

```
Results Summary Calling Party Information
Calling Party = 1000
Partition =
Device CSS =
Line CSS =
AAR Group Name =
AARCSS =
Dialed Digits = sip:1001@cisco.com
Match Result = RouteThisPattern
Matched Pattern Information
Pattern = ([mM][oO][cC].[oO][cC][sS][iI][cC])
Partition =
Time Schedule =
Called Party Number =
Time Zone =
Call Classification = OnNet
InterDigit Timeout = NO
```

```
Device Override = Disabled
Outside Dial Tone = NO
Call Flow
RouteDomainPattern :Pattern= ([mM][oO][cC].[oO][cC][sS][iI][cC])
Positional Match List =
Calling Party Transformations
External Phone Number Mask = NO
Calling Party Mask =
Prefix =
CallingLineId Presentation = Default
CallingName Presentation = Default
Calling Party Number = 1000
ConnectedParty Transformations
ConnectedLineId Presentation = Default
ConnectedName Presentation = Default
Called Party Transformations
Called Party Mask =
Discard Digits Instruction =
Prefix =
Called Number =
Device :Type= SIPTrunk
End Device Name = SIPTrunk
PortNumber =
Device Status = UnKnown
Automated Alternate Routing (AAR)
  AAR Group Name =
  AAR Calling Search Space =
  AAR VoiceMail Status = Disabled
  AAR Destination Mask =
  AAR Prefix Digits =
Call Classification = Use System Default
Calling Party Selection = Originator
CallingLineId Presentation = Default
CallerID DN =
Alternate Matches
Note: Information Not Available
```

## 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## 例 7

次に、IP アドレス ルーティングを使用して SIP ルート パターンを設定するときに、SIP 分析設定を分析結果に表示する例を示します。この例では、Cisco Unified Communications Manager で次のセットアップが行われていることを前提にしています。

[パターン使用法 (Pattern Usage) ] = [IPAddress ルーティング (IPAddress Routing) ]

[パターン (Pattern) ] = 10.77.21.22

[ルート パーティション (Route Partition) ] = [なし (None) ]

[SIP トランク (SIP Trunk) ] = SIPTrunk

[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation) ] = [デフォルト (Default) ]

[発呼者回線名の表示 (Calling Line Name Presentation)] = [デフォルト (Default)]

[接続側回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] = [デフォルト (Default)]

[接続側回線名の表示 (Connected Line Name Presentation)] = [デフォルト (Default)]

この例を実行するには、次の手順を使用します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Dialed Number Analyzer にアクセスし、[分析 (Analysis)] > [アナライザ (Analyzer)] を選択します。  
[アナライザ (Analyzer)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [発呼側 (Calling Party)] フィールドに、発呼側番号を入力します (デフォルトで 1000 が表示されます)。
- ステップ 3** [SIP 分析 (SIP Analysis)] に対応するチェックボックスをオンにし、[IP ルート (IP Route)] を選択します。
- ステップ 4** [ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに sip:1001@10.77.21.22 と入力します。この 10.77.21.22 は、コールを発信する SIP ルート パターンにマッピングされるゲートウェイを示します。1001 は、SIP コールが SIP トランクから外れる宛先までの外部ネットワーク内の宛先アドレスを示します。  
(注) SIP 分析に対応するチェックボックスをオンにしてから、[ダイヤル番号 (Dialed Digits)] 情報を入力してください。このチェックボックスがオフの場合、[ダイヤル番号 (Dialed Digits)] フィールドに使用できるのは、数字、A ~ D、a ~ d、#、および \* だけになります。
- ステップ 5** [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] ドロップダウン リストから [なし (None)] を選択します。
- ステップ 6** [デバイス タイム ゾーン (Device Time Zone)] ドロップダウン リスト ボックスから [グリニッジ 標準時 (GMT) : ダブリン、エジンバラ、ロンドン、リスボン (Greenwich Mean Time (GMT); Dublin, Edinburgh, London, Lisbon)] を選択します。
- ステップ 7** [タイム ゾーン (Time Zone)] ドロップダウン リストから [(GMT+05:30) : ボンベイ、カルカッタ、マドラス、ニューデリー、コロンボ ((GMT+05:30): Bombay, Calcutta, Madras, New Delhi, Colombo)] を選択します。
- ステップ 8** [日付 (Date)] ドロップダウン リスト ボックスから [2005]、[11 月 (Nov)]、および [15] を選択します。
- ステップ 9** [時間 (Time)] ドロップダウン リスト ボックスから [15:30:0:0] を選択します。
- ステップ 10** [分析の実行 (Do Analysis)] をクリックします。
- ステップ 11** [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results)] ウィンドウという新しいウィンドウに結果が表示されます。[結果の概要 (Results Summary)] セクションを展開すると、概要情報が表示されます。
- ステップ 12** ウィンドウのすべてのノードを展開してすべての値を表示するには、[すべて展開 (Expand All)] をクリックします。また、ウィンドウのすべてのノードを閉じるには、[すべて縮小 (Collapse All)] をクリックします。



(注) [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] ウィンドウが最初に表示されたとき、[すべて展開 (Expand All) ] ボタンと [すべて縮小 (Collapse All) ] ボタンの両方が有効になっています。

結果については、次を参照してください。

(注) 分析結果は、Cisco Unified Communications Manager データベースで使用可能な設定にのみ基づいています。ゲートウェイのアウトバウンドコールについては、ゲートウェイの設定によってコールの詳細が異なることがあります。

### 例 7 の分析結果

```
Results Summary Calling Party Information
Calling Party = 1000
Partition =
Device CSS =
Line CSS =
AAR Group Name =
AARCSS =
Dialed Digits = sip:1001@10.77.21.22
Match Result = RouteThisPattern
Matched Pattern Information
Pattern = (00001010010011010001010100010110)
Partition =
Time Schedule =
Called Party Number =
Time Zone =
Call Classification = OnNet
InterDigit Timeout = NO
Device Override = Disabled
Outside Dial Tone = NO
Call Flow
RouteIPNetPattern :Pattern= (00001010010011010001010100010110)
Positional Match List =
Calling Party Transformations
External Phone Number Mask = NO
Calling Party Mask =
Prefix =
CallingLineId Presentation = Default
CallingName Presentation = Default
Calling Party Number = 1000
ConnectedParty Transformations
ConnectedLineId Presentation = Default
ConnectedName Presentation = Default
Called Party Transformations
Called Party Mask =
Discard Digits Instruction =
Prefix =
Called Number =
Device :Type= SIPTrunk
End Device Name = SIPTrunk
PortNumber =
Device Status = UnKnown
Automated Alternate Routing (AAR)
```

```

AAR Group Name =
AAR Calling Search Space =
AAR VoiceMail Status = Disabled
AAR Destination Mask =
AAR Prefix Digits =
Call Classification = Use System Default
Calling Party Selection = Originator
CallingLineId Presentation = Default
CallerID DN =
Alternate Matches
Note: Information Not Available

```

### 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## 例 8

次に、Multiple Analyzer 機能を使用して、ダイヤルプランについて複数の分析とバルク テストを実行する例を示します。

[複数の分析用の CSV ファイルの作成, \(37 ページ\)](#) または [複数の分析用のテキストファイルの作成, \(38 ページ\)](#) を使用して CSV ファイルを作成します。

この例では、CSV ファイルに Calling Party Number、Dialed Digit、Device Time Zone、Time Zone、Date for Analysis、Time for Analysis というフィールドについて次の 3 行が含まれます。

```

1000,20,,4,37,2005-Jun-9,3:00:59,
1000,30,,4,37,2005-Jun-9,3:00:59,
1000,40,CSS1,4,37,2005-Jun-9,3:00:59,

```

この例を実行するには、次の手順を使用します。

### 手順

- 
- ステップ 1 [分析 (Analysis) ] > [Multiple Analyzer] を選択します。
  - ステップ 2 ウィンドウの右上のドロップダウン リスト ボックスから [入力ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Input Files) ] を選択し、[移動 (Go) ] をクリックします。
  - ステップ 3 [入力ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Input Files) ] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 4 入力ファイルをアップロードするには、CSV ファイルを保存するディレクトリを入力するか、[参照 (Browse) ] ボタンを使用してディレクトリを選択します。
  - ステップ 5 [ファイルのアップロード (Upload File) ] をクリックします。CSV ファイルがサーバにアップロードされます。
 

(注) サーバにアップロードされたファイルは、結果ディレクトリに保存されます。結果ディレクトリには、file list activelog /tomcat/logs/dna/Results という CLI からアクセスできます。トレースファイルを収集および表示するには、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で trace および log central オプションを使用します。詳細については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

- ステップ 6** [分析 (Analysis) ] > [Multiple Analyzer] を選択します。
- ステップ 7** [ファイル名 (File Name) ] ドロップダウン リスト ボックスから、分析する CSV ファイルを選択します。
- ステップ 8** [分析の実行 (Do Analysis) ] をクリックします。[Multiple Analyzer の結果 (Multiple Analyzer Results) ] という別のウィンドウに分析結果が表示されます。このウィンドウには、パターンをルーティングできるかどうかを判断できる簡潔な情報が表示されます。結果の各行について詳細な分析を表示するには、[詳細 (Details) ] をクリックします。
- ステップ 9** [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] ウィンドウという新しいウィンドウに結果が表示されます。[結果の概要 (Results Summary) ] セクションを展開すると、概要情報が表示されます。
- ステップ 10** ウィンドウのすべてのノードを展開し、すべての値を表示するには、[すべて展開 (Expand All) ] をクリックします。また、ウィンドウのすべてのノードを閉じるには、[すべて縮小 (Collapse All) ] をクリックします。
- (注) [Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] ウィンドウが最初に表示されたとき、[すべて展開 (Expand All) ] ボタンと [すべて縮小 (Collapse All) ] ボタンの両方が有効になっています。
- 結果については、次を参照してください。

## 例 8 の分析結果

アップロードされた CSV ファイルの入力データの 1 行目に関する結果

```
Results Summary Calling Party Information
Calling Party = 1000
Partition =
Device CSS =
Line CSS =
AAR Group Name =
AARCSS =
Dialed Digits = 20
Match Result = BlockThisPattern
Called Party Number =
Matched Pattern Information
Pattern =
Partition =
Pattern Type =
Time Zone =
Outside Dial Tone = NO
Call Flow
Note: Information Not Available
Alternate Matches
Note: Information Not Available
```

Results for the second line of input data in the uploaded CSV file

```
Results Summary Calling Party Information
Calling Party = 1000
Partition =
```

```
Device CSS =  
Line CSS =  
AAR Group Name =  
AARCSS =  
Dialed Digits = 30  
Match Result = BlockThisPattern  
Called Party Number =  
Matched Pattern Information  
Pattern =  
Partition =  
Pattern Type =  
Time Zone =  
Outside Dial Tone = NO  
Call Flow  
Note: Information Not Available  
Alternate Matches  
Note: Information Not Available
```

#### Results for the third line of input data in the uploaded CSV file

```
Results Summary Calling Party Information  
Calling Party = 1000  
Partition =  
Device CSS =  
Line CSS =  
AAR Group Name =  
AARCSS =  
Dialed Digits = 40  
Match Result = BlockThisPattern  
Called Party Number =  
Matched Pattern Information  
Pattern =  
Partition =  
Pattern Type =  
Time Zone =  
Outside Dial Tone = NO  
Call Flow  
Note: Information Not Available  
Alternate Matches  
Note: Information Not Available
```

#### 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## 結果概要

分析結果の [結果の概要 (Results Summary) ] セクションには、ダイヤル番号の分析結果の概要が示され、[発呼側情報 (Calling Party Information) ] および [一致するパターンの情報 (Matched Pattern Information) ] が表示されます。



- (注) この項に説明がないフィールドには、Cisco Unified Communications Manager の管理で指定したデータが表示されます。これらのフィールドの詳細については、Cisco Unified CM Administration のオンラインヘルプを参照してください。

### 発呼側情報

[発呼側 (Calling Party) ] : すべてのトランスフォーメーションが適用された後の発呼側番号。

[パーティション (Partition) ] : 最終的な発呼側が属するパーティション。

[デバイス CSS (Device CSS) ] : 発信デバイスと関連付けられているコーリングサーチスペース (CSS) 。

[回線 CSS (Line CSS) ] : 発呼側番号に関連付けられている CSS。

[AARグループ名 (AAR Group Name) ] : このパターンが属する Automated Alternate Routing (AAR) グループ。

[AARCSS] : AAR を実行するときに発呼側デバイスが使用するコーリングサーチスペース。

[ダイヤル番号 (Dialed Digits) ] : [ダイヤル番号 (Dialed Digits) ] フィールドにユーザが入力した数字。

[一致結果 (Match Result) ] : コールがルーティングされたか、ブロックされたかを示します。[RouteThisPattern] または [BlockThisPattern] が表示されます。



- (注) [分析 (Analysis) ]>[電話 (Phones) ]、[分析 (Analysis) ]>[ゲートウェイ (Gateways) ]、および [分析 (Analysis) ]>[トランク (Trunks) ] の各ウィンドウを使用して分析を実行した場合、発信エンティティとして特定のデバイスが選択されていないため、回線固有とデバイス固有の情報が結果に表示されます。[分析 (Analysis) ]>[アナライザ (Analyzer) ] ウィンドウから分析を実行するときは、Cisco Unified Communications Manager に設定されているデバイスとリンクされていない発呼側番号を入力します。この手順を使用して取得された分析結果の [結果の概要 (Results Summary) ] セクションには、回線固有およびデバイス固有の情報は表示されません。

### 一致するパターンの情報

- [パターン (Pattern) ] : 最終的なパターンの一致を示します。
- [パーティション (Partition) ] : この最終的なパターンが存在するパーティションを示します。
- [スケジュール (Time Schedule) ] : このパターンが存在するパーティションに選択されたスケジュールの名前を示します。

[パターンタイプ (Pattern Type)] : Meet-Me Conference Number、Call Park Code Number、および Call Pickup Number が表示されます。このフィールドが表示されるのは、ダイヤル番号が機能パターンタイプと一致する場合だけです。

[着呼側番号 (Called Party Number)] : 最終的な着呼側番号。

[タイムゾーン (Time Zone)] : 一致したパターンに関連付けられるデバイスのタイムゾーン情報。

[ダイヤル番号間タイムアウト (Interdigit Timeout)] : コールを最終的なデバイスにルーティングするときの時間の遅延。

[エンドデバイス (End Device)] : コールがルーティングされた最終的なデバイス。このフィールドが表示されるのは、ダイヤル番号がルートパターンと一致する場合だけです。

[OffNetPattern (OutsideDialTone) (OffNetPattern (OutsideDialTone))] : Cisco Unified Communications Manager の管理でこのフィールドがオンかオフかに応じて、[オフネット (OffNet)] または [オンネット (OnNet)]。



(注) 代行受信パターンの場合、デバイス固有の情報は表示されず、代わりにパターンタイプを示すタグが表示されます。

#### 関連トピック

[関連項目](#), (81 ページ)

## コールフローの詳細

結果の [コールフロー (Call Flow)] セクションには、コールが経由するすべての段階に関する詳細情報が表示されます。たとえば、トランスレーションパターン、ルートパターン、ルートリスト、ルートグループ、エンドデバイスなどです。

[コールフロー (Call Flow)] セクションに表示される結果については、次のトピックを参照してください。

- [\[トランスレーションパターン \(Translation Pattern\)\]](#), (71 ページ)
- [ルートパターン](#), (72 ページ)
- [ハントパイロット](#), (73 ページ)
- [\[電話番号 \(Directory Number\)\]](#), (75 ページ)
- [\[デバイス情報 \(Device Information\)\]](#), (75 ページ)



(注) この項に説明がないフィールドには、Cisco Unified Communications Manager の管理で指定したデータが表示されます。これらのフィールドの詳細については、Cisco Unified CM Manager Administration のオンライン ヘルプを参照してください。

- [発呼側トランスフォーメーション (Calling Party Transformation) ] : 次のトランスフォーメーションなど、エンドデバイスに固有のトランスフォーメーション。
- [トランスフォーメーション前の発呼側番号 (Pretransform Calling Party Number) ] : エンドデバイスの発呼側トランスフォーメーション設定が適用される前の発呼側番号。
- [発呼者の選択 (Calling Party Selection) ] : [発信元 (Originator) ]/[最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number) ] などの選択。
- 発呼者の表示 (Calling Party Presentation)
- [発呼側番号 (Calling Party Number) ] : エンドデバイスの発呼側トランスフォーメーション設定が適用された後の発呼側番号。

## [トランスレーションパターン (Translation Pattern) ]

ダイヤル番号が設定済みのトランスレーションパターンに一致している場合、[トランスレーションパターン (Translation Pattern) ] セクションにはダイヤル番号に関する情報が表示されます。

次のフィールドが表示されます。

- [ハントパイロット : パターン (Hunt Pilot:Pattern) ] : 一致したハントパイロットパターン。
- [位置の一致リスト (Positional Match List) ] : パターンに関連付けられているダイヤル番号の位置。
- [ダイヤルプラン (DialPlan) ] : このトランスレーションパターンが存在する番号計画。
- [ルートフィルタ (Route Filter) ] : ダイヤル番号に適用されるルートフィルタ。
  - [フィルタ名 (Filter Name) ] : トランスレーションパターンに関連付けられているルートフィルタ名。
  - [フィルタ条件 (Filter Clause) ] : トランスレーションパターンに関連付けられているルートフィルタ条件。
    - [トランスフォーメーション前の発呼側番号 (Pretransform Calling Party Number) ] : トランスレーションパターンの発呼側トランスフォーメーション設定が適用される前の発呼側番号。
    - [トランスフォーメーション前の着呼側番号 (Pretransform Called Party Number) ] : トランスレーションパターンの着呼側トランスフォーメーション設定が適用される前の着呼側番号。
    - [発呼側トランスフォーメーション (Calling Party Transformations) ] : トランスレーションパターンの発呼側トランスフォーメーション設定。

- [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask) ] : Cisco Unified Communications Manager の管理でこのフィールドがオンかオフかに応じて、[はい (Yes) ] または [いいえ (No) ]。
- 発呼側マスク (Calling Party Mask)
- プレフィックス (Prefix)
- 発呼者の表示 (Calling Party Presentation)
- [発呼側番号 (Calling Party Number) ] : トランスレーション パターンの発呼側トランスフォーメーション設定が適用された後の発呼側番号。
  - [着信側トランスフォーメーション (Called Party Transformations) ] : 次の設定など、トランスレーション パターンの着信側トランスフォーメーション設定。
- 着呼側マスク (Called Party Mask)
- 番号削除の命令 (Discard Digit Instructions)
- プレフィックス (Prefix)
- [着信番号 (Called Number) ] : トランスレーション パターンの発呼側トランスフォーメーション設定が適用された後の発呼側番号。

## ルートパターン

ダイヤル番号がルートパターンに一致する場合、[ルートパターン (Route Pattern) ]サブセクションには、ダイヤル番号のルートパターンの詳細に関する情報が表示されます。

- [ルートパターン : パターン (Route pattern:Pattern) ] : 一致したルートパターン。
- [位置の一致リスト (Positional Match List) ] : パターンに関連付けられているダイヤル番号の位置。
- [ダイヤルプラン (DialPlan) ] : このルートパターンが存在する番号計画。
- [ルートフィルタ (Route Filter) ]
  - [フィルタ名 (Filter Name) ] : ルートパターンに関連付けられているルートフィルタ名。
  - [フィルタ条件 (Filter Clause) ] : ルートパターンに関連付けられているルートフィルタ条件。
    - [強制承認コードが必須 (Require Forced Authorization Code) ] : Cisco Unified Communications Manager の管理でこのフィールドがオンかオフかに応じて、[はい (Yes) ] または [いいえ (No) ]。
    - [承認レベル (Authorization Level) ] : Cisco Unified Communications Manager の管理で指定されている承認レベル。



- [クライアント識別コードが必須 (Require Client Matter Code) ] : Cisco Unified Communications Manager の管理でこのフィールドがオンかオフかに応じて、[はい (Yes) ] または [いいえ (No) ]。
- [トランスフォーメーション前の発呼側番号 (Pretransform Calling Party Number) ] : ルート パターンの発呼側トランスフォーメーション設定が適用される前の発呼側番号。
- [トランスフォーメーション前の着呼側番号 (Pretransform Called Party Number) ] : ルート パターンの着呼側トランスフォーメーション設定が適用される前の着呼側番号。
- [発呼側トランスフォーメーション (Calling Party Transformations) ]。次の設定など、ルート パターンの発呼側トランスフォーメーション設定が表示されます。
- [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask) ] : Cisco Unified Communications Manager の管理でこのフィールドがオンかオフかに応じて、[はい (Yes) ] または [いいえ (No) ]。
- 発呼側マスク (Calling Party Mask)
- プレフィックス (Prefix)
- 発呼者の表示 (Calling Party Presentation)
- [発呼側番号 (Calling Party Number) ] : ルート パターンの発呼側トランスフォーメーション設定が適用された後の発呼側番号。
  - [着信側トランスフォーメーション (Called Party Transformations) ] : 次の設定など、ルート パターンの着信側トランスフォーメーション設定。
- 着呼側マスク (Called Party Mask)
- 番号の削除命令 (Digit Discarding Instructions)
- プレフィックス (Prefix)
- [着信番号 (Called Number) ] : ルート パターンの発呼側トランスフォーメーション設定が適用された後の発呼側番号。

## ハントパイロット

このセクションには、ハントリスト、回線グループ、およびハント転送の設定に関する情報が含まれています。

- [ハントリスト : ハントリスト名 (Hunt List: HuntList Name) ] : ルートリストの名前。
- [回線グループ : 回線グループ名 (LineGroup: LineGroup Name) ] : ルートリストに含まれるルートグループの名前。

- [トランスフォーメーション前の発呼側番号 (Pretransform Calling Party Number)] : ルートグループの発呼側トランスフォーメーション設定が適用される前の発呼側番号。
- [トランスフォーメーション前の着呼側番号 (Pretransform Called Party Number)] : ルートグループの着呼側トランスフォーメーション設定が適用される前の着呼側番号。
- [発呼側トランスフォーメーション (Calling Party Transformations)] : 次の設定など、ルートグループの発呼側トランスフォーメーション設定。
  - [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] : Cisco Unified Communications Manager の管理でこのフィールドがオンかオフかに応じて、[はい (Yes)] または [いいえ (No)] が表示されます。
  - 発呼側マスク (Calling Party Mask)
  - プレフィックス (Prefix)
  - [発呼側番号 (Calling Party Number)] : ルートグループの発呼側トランスフォーメーション設定が適用された後の発呼側番号。
    - [着信側トランスフォーメーション (Called Party Transformations)] : 次の設定など、ルートグループの着信側トランスフォーメーション設定。
  - 着呼側マスク (Called Party Mask)
  - 番号削除の命令 (Discard Digit Instructions)
  - プレフィックス (Prefix)
  - [着信番号 (Called Number)] : ルートグループの発呼側トランスフォーメーション設定が適用された後の発呼側番号
    - ハント転送設定 (Hunt Forward Settings)
  - [無応答時ハント転送 (Forward Hunt No Answer)] : ハントパイロットに一致するときのコール転送設定。
 

[個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] : Cisco Unified Communications Manager の管理でこのフィールドがオンかオフかに応じて、[はい (Yes)] または [いいえ (No)] 。

[接続先 (Destination)] : 応答がないときのコール転送の接続先番号。

[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 話し中と応答なしのいずれかまたはどちらでも適用可能な転送の接続先が存在するコーリングサーチスペース。
  - [話中ハント転送 (Forward Hunt Busy)] :
 

[個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] : Cisco Unified Communications Manager の管理でこのフィールドがオンかオフかに応じて、[はい (Yes)] または [いいえ (No)] 。

[接続先 (Destination)] : 応答がないときのコール転送の接続先番号。

[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 話し中と応答なしのいずれかまたはどちらでも適用可能な転送の接続先が存在するコーリングサーチスペース。

- [最大ハントタイマー (Maximum Hunt Timer) ] : Cisco Unified Communications Manager の管理で [最大ハントタイマー (Maximum Hunt Timer) ] フィールドに指定されている値。

## [電話番号 (Directory Number) ]

ダイヤル番号が DN 番号に一致する場合、[ディレクトリ番号 (DN) (Directory Number (DN)) ] サブセクションには DN に関する詳細が表示されます。

- [ディレクトリ番号 : DN (Directory Number: DN) ] : ディレクトリ番号。
  - [パーティション (Partition) ] : DN が存在するパーティション。
  - デバイス ロケーション (Device Location)
    - [転送情報 (Forwarding Information) ] : DN に関連付けられている転送設定。転送動作は、発信元が内部ユーザか外部ユーザかによって異なります。次の転送設定が表示されます。
  - 不在転送 : DN (Forward All: DN)
  - 話中転送 (Forward Busy)
    - 内部 : DN (Internal: DN)
    - 外部 : DN (External: DN)
  - 無応答時転送 (Forward No Answer)
    - 内部 : DN (Internal: DN)
    - 外部 : DN (External: DN)
  - カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage)
    - 内部 : DN (Internal: DN)
    - 外部 : DN (External: DN)

## [デバイス情報 (Device Information) ]

- [デバイス : タイプ (Device:Type) ] : デバイスのタイプ。
  - [エンドデバイス名 (End Device Name) ] : エンドポイントデバイスの名前。
  - [デバイス ステータス (Device Status) ] : エンドデバイスのステータス ([登録済み (Registered) ]/[未登録 (Unregistered) ]/[不明 (Unknown) ]) 。
  - [発信者 ID DN (Caller ID DN) ] : トランクからのアウトバウンドコールに対して発信者 ID のフォーマットに使用されるマスク。

- [インバウンド Fast Start (Inbound Fast Start)] : Cisco Unified Communications Manager の管理で [インバウンド Fast Start (Inbound Fast Start)] フィールドがオンかオフかに応じて、[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)]。
- [アウトバウンド Fast Start (Outbound Fast Start)] : Cisco Unified Communications Manager の管理で [アウトバウンド Fast Start (Outbound Fast Start)] フィールドがオンかオフかに応じて、[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)]。
- [アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)] : Cisco Unified Communications Manager の管理で [アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec for Outbound FastStart)] に指定されている値。
- [コールの分類 (Call Classification)] : Cisco Unified Communications Manager の管理で選択されている値に応じて、[オフネット (OffNet)]、[オンネット (OnNet)]、[システム デフォルトの使用 (Use System Default)]、または [なし (None)]。
- [トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] : Cisco Unified Communications Manager の管理で [トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] フィールドに設定されている値に応じて、[QSIG] または [none]。
- [プレゼンテーション インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators)] : 内部コールでは無視する必要がある発呼側のプレゼンテーション設定。
- [呼び出し表示 (Alerting Name)] : Cisco Unified Communications Manager で電話に選択されているアラートの通知相手の名前。
- [デュアル モード (Dual Mode)] : Cisco Unified Communications Manager の管理で選択されたオプションに応じて、[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)]。

## サイレント (DND)

- [DND ステータス (DND Status)] : サイレントのステータスに応じて、[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)]。
- [DND オプション (DND Option)] : サイレントの呼び出し音をオンまたはオフにするオプション。
- [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] : 呼び出し音がオフのときに選択される警告のタイプに応じて、[ビープ音なし (No Beep)]、[フラッシュ通知 (Flash notification)]、[ビープ音のみ (Beep only)]、または [フラッシュのみ (Flash only)]。
- [DND タイムアウト (分) (DND Timeout (minutes))] : サイレントがオンになっていることを示すリマインダ トーンを電話が受信するまでの時間間隔。

## 自動代替ルーティング (AAR)

[AAR グループ名 (AAR Group Name)] : このデバイスが属している AAR グループ。

[AAR コーリング サーチ スペース (AAR Calling Search Space) ] : このエンドデバイスが属している AAR コーリング サーチ スペース。

[AAR ボイスメール ステータス (AAR VoiceMail Status) ] : [有効 (Enabled) ] または [無効 (Disabled) ]。デバイスの AAR ボイスメール ステータス。

[AAR 接続先マスク (AAR Destination Mask) ] : AAR 接続先のフォーマットに使用されるマスク。

[AAR プレフィックス番号 (AAR Prefix Digits) ] : この AAR グループ内の自動代替ルーティングに使用されるプレフィックス番号。

## インターコム DN パターン

- [CSS] : インターコム DN のコーリング サーチ スペース。
- [プレゼンスグループ (Presence Group) ] : インターコム DN が属するプレゼンスグループ。

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## 代替の一致

このセクションには、ダイヤル番号について最適な一致を検索するときに、分析プロセスで検索されたすべての代替の一致が表示されます。



(注) この項に説明がないフィールドには、Cisco Unified Communications Manager の管理で指定したデータが表示されます。これらのフィールドの詳細については、Cisco Unified CM Manager Administration のオンライン ヘルプを参照してください。

出力は、次の形式で表示されます。

- [パーティション : 名前 (Partition : Name) ] : ルート パターンが存在するパーティション。
- パターン
  - [ルートパターン (Route Pattern) ] : ルート パターンの名前。
  - [パターンタイプ (Pattern Type) ] : パターンタイプ ([トランスレーション (Translation) ] または [エンタープライズ (Enterprise) ] ) 。
  - [ネットワーク ロケーション (Network Location) ] : ルート パターンのネットワーク ロケーションを示します ([オフネット (OffNet) ] または [オンネット (OnNet) ] ) 。
  - [Communications Manager のデバイス タイプ (Communications Manager Device Type) ] : 一致するデバイスがアクセス デバイスかユーザ デバイスカを指定します。



(注) パターンに関連付けられた設定によっては、他のパラメータが表示されることもあります。

## 関連トピック

[関連項目](#), (81 ページ)

## 番号削除の命令のダンプ

各 Cisco Unified Communications Manager ダイヤルプラン設定では、番号削除の命令 (DDI) を含む着信側トランスフォーメーションの情報が指定されます。Dialed Number Analyzer では、分析している Cisco Unified Communications Manager ダイヤルプランに指定されている DDI を表示できません。

また、分析している Cisco Unified Communications Manager ダイヤルプランに設定されているゲートウェイおよび電話について、関連付けられているすべてのダイヤルパターンを表示できます。ダイヤルプランに指定されている DDI またはダイヤルパターン情報を表示するには、次の手順を使用します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [分析 (Analysis) ] > [DA 情報のダンプ (Dump DA Information) ] を選択します。  
[ダンプ オプション (Dump Options) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ダンプ オプションの選択 (Select Dump Option) ] フィールドで、[番号削除の命令 (Discard Digit Instructions) ]、[ダイヤルフォレスト (Dialing Forest) ]、または[学習パターンのダイヤルフォレスト (Learned Patterns Dialing Forest) ] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 3** [表示オプションの選択 (Select Viewing Option) ] フィールドで、次のいずれかの操作を実行します。
- ブラウザ ウィンドウで番号削除の命令またはダイヤルフォレスト情報を表示するには、[ブラウザでファイルを表示 (Open File in Browser) ] ボタンをクリックします。
  - 番号削除の命令またはダイヤルフォレスト情報をファイルに保存するには、[ファイルを保存 (Save File) ] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 4** [終了 (Finish) ] をクリックします。  
ブラウザについて番号削除の命令またはダイヤルフォレスト情報を表示するように選択すると、同じウィンドウに結果が表示されます。
- 番号削除の命令またはダイヤルフォレスト情報をファイルに保存するように選択すると、[ファイルのダウンロード (File Download) ] ダイアログボックスが表示されます。ファイルを保存するには、次の手順を使用します。
- [保存 (Save) ] をクリックします。  
[名前を付けて保存 (Save As) ] ダイアログが表示されます。ファイルを保存する PC 上の場所を参照します。
  - [保存 (Save) ] をクリックします。

結果は DialPlanForest.txt または DiscardDigitInstructions.txt というテキスト ファイルに保存されます。これは、番号削除の命令とダイヤルフォレストのどちらを選択したかによって変わります。

#### 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## 出力ファイルの表示

電話、ゲートウェイ、またはトランクを使用して実行した分析の結果を保存すると、結果はXML ファイルとして PC に保存されます。Dialed Number Analyzer を使用することにより、これらの出力ファイルをブラウザ上で取得および表示できます。出力ファイルを表示するには、次の手順を使用します。

#### 手順

- ステップ 1** [分析 (Analysis) ] > [ファイルの表示 (View File) ] を選択します。
- ステップ 2** [ファイルの表示 (View File) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [表示するファイルの選択 (Select a File to View) ] フィールドの [参照 (Browse) ] をクリックします。必要な出力ファイルの PC 上の場所を参照し、その出力ファイルを選択します。出力ファイルの例を次に示します。  
DialedNumberAnalyzerOutput\_1001.xml  
ここで、1001 は、分析時に指定されたダイヤル番号を表しています。
- ステップ 4** [ファイルの表示 (View File) ] をクリックします。  
出力ファイルが、[Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] という新しいウィンドウに表示されます。  
[結果の概要 (Results Summary) ] セクションが展開され、概要が表示されます。必要な結果のセクションを展開して詳細を表示するには、プラス アイコンをクリックします。
- ステップ 5** 結果を閲覧した後は、[Dialed Number Analyzer の結果 (Dialed Number Analyzer Results) ] ウィンドウを閉じます。

#### 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## トレース設定ファイルの有効化

トレースファイルには、ツールの機能の問題を追跡する手段が用意されています。システムは、Dialed Number Analyzer のトレース ファイルを Dialed Number Analyzer がインストールされているサーバに書き込みます。Dialed Number Analyzer の [サービス制御 (Service Control)] ウィンドウからトレース ファイルの書き込み機能を有効または無効にすることができます。ここでは、トレース ファイルの書き込みを有効および無効にする手順について説明します。

機能を有効にするには、次の手順を使用します。

### 手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Serviceability で、[トレース (Trace)] > [トレース設定 (Trace Configuration)] を選択します。  
[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストボックスからサーバを選択します。
- ステップ 3 [設定されているサービス (Configured Services)] ドロップダウンリストボックスから [Cisco Dialed Number Analyzer] を選択します。
- ステップ 4 トレース機能をアクティブにするには、[トレース オン (Trace On)] チェックボックスをクリックします。
- ステップ 5 [トレースフィルタ設定 (Trace Filter Settings)] の [デバッグトレースレベル (Debug Trace Level)] ドロップダウンリストボックスから設定するトレースレベルを選択します。次の表の説明に従って、必要なデバッグトレースレベルをクリックします。

表 2: デバッグトレースレベル

水準器	説明
重大 (Fatal)	アプリケーションが中断する可能性がある重大なエラー イベントをトレースします。
エラー (Error)	アラーム状態およびイベントをトレースします。異常なパスで生成されたすべてのトレースに使用します。使用する CPU サイクル数は最小限です。
警告 (Warn)	損害が発生する可能性がある状況をトレースします。
情報 (Info)	servlet の問題の多数をトレースし、システム パフォーマンスに最小限の影響を与えます。
デバッグ (Debug)	通常運用時に発生するすべての状態遷移条件とメディアレイヤ イベントをトレースします。 すべてのロギングを有効にするトレースレベル。



- ステップ 6** [トレース出力設定 (Trace Output Settings)] に、ファイルの最大数、ファイルごとの最大行数、およびファイルごとの最大分数の値を入力します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。  
機能が有効になると、トレース ファイルはサーバの次の場所書き込まれます。  
activelog/tomcat/logs/dna/log4j  
Multiple Analyzer 機能のトレース ファイルは、サーバの次の場所書き込まれます。  
activelog/tomcat/logs/dna/Results  
ファイルは、次の形式で表示されます。  
DNA\_indexNo.txt  
この <indexNo> は 1 ~ 250 です。  
トレース ファイルに含める情報を設定した後は、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で trace および log central オプションを使用して、トレース ファイルを収集および表示できます。詳細については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。  
トレース ファイルの書き込み機能を無効にするには、次の手順を使用します。
- ステップ 8** Cisco Unified Communications Manager Serviceability で、[トレース (Trace)] > [トレース設定 (Trace Configuration)] を選択します。  
[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 9** [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスからサーバを選択します。
- ステップ 10** [設定されているサービス (Configured Services)] ドロップダウン リスト ボックスから [Cisco Dialed Number Analyzer] を選択します。
- ステップ 11** トレース機能を非アクティブにするには、[トレース オン (Trace On)] チェックボックスをオフにします。
- ステップ 12** [保存 (Save)] をクリックします。  
この操作で、機能は無効になります。

---

#### 関連トピック

[関連項目, \(81 ページ\)](#)

## 関連項目

- [データベースの同期の有効化, \(10 ページ\)](#)
- [単純な分析の実行, \(12 ページ\)](#)
- [電話の分析, \(15 ページ\)](#)

- [ゲートウェイの分析, \(19 ページ\)](#)
- [トランク分析, \(32 ページ\)](#)
- [複数の分析, \(36 ページ\)](#)
- [分析の出力, \(45 ページ\)](#)
- [番号削除の命令のダンプ, \(78 ページ\)](#)
- [出力ファイルの表示, \(79 ページ\)](#)
- [トレース設定ファイルの有効化, \(80 ページ\)](#)